《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	大野　満奈				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
本ゼミでは、食品と経済のかかわりに興味をもち、食品に関して消費がどのようになされていくのかをSDGｓ達成に関連して考察していく。食品経済関する学外研修を多く行います。卒業研究の進捗状況報告を含めて、ゼミ生による発表も行う。本ゼミが取り上げるSDGsの目標11は2030年までに「住み続けられるまちづくりを」を目指すものであり、本ゼミでは、それら目標の達成に、焦点を当て探ることとする。

《授業の到達目標》
健康栄養学科に学ぶ学生としてふさわしい視点からSDGsを正しく理解し、問題意識をもって「行動する」ことへとつなげられる。特に、食品によって地域を活性化させるという視点に立って、各自の考えや意見を表明できるようにする。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
授業の都度必要に応じて資料を配布する

《参考図書》
令和4年度版　「さいたま市の農業」さいたま市経済局農業政策部農業政策課2023年3月発行

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
提出されたレポートは次回までにコメントし返却する。プレゼンテーションについては、その都度授業中にコメントしフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	授業説明	前期のゼミの取り組みの説明を行う 【時間外学習】シラバスの内容について確認する
2	卒業研究について	卒業研究についての説明を行う 【時間外学習】事前に配布された資料に目を通しておく
3	食品に関する企業について	食品に関する企業の求人情報についてハローワークに訪問し検索する 【時間外学習】自分の興味のある業種を選択しておく
4	食品ロス	食品ロスについて過去の卒業研究の資料から学修する 【時間外学習】事前に配布された資料を熟読しておく
5	肉代用食品	食習慣の多様性と肉代用食品について過去の卒業研究の資料から学修する 【時間外学習】事前に配布された資料を熟読しておく
6	食による町おこし	食による町おこしについて過去の卒業研究の資料から学修する 【時間外学習】事前に配布された資料を熟読しておく
7	SDGｓと食品	食品によるSDGｓ達成について過去の卒業研究の資料から学修する 【時間外学習】事前に配布された資料を熟読しておく
8	SDGｓと農業	農業とSDGｓ達成との関係を過去の卒業研究の資料から学修する 【時間外学習】事前に配布された資料を熟読しておく
9	さいたま市の農業	さいたま市役所を訪問し、さいたま市の農業に関し説明を受ける 【時間外学習】事前に配布された資料を熟読しておく
10	さいたま市の農業	卒研 【時間外学習】テーマを決めておく
11	さいたま市の農業	卒研 【時間外学習】テーマに沿った調べ学習
12	さいたま市の農業	卒研 【時間外学習】テーマに沿った調べ学習
13	さいたま市の農業	農家訪問 【時間外学習】訪問先を調べておく
14	さいたま市の農業	卒研 【時間外学習】テーマに沿った調べ学習
15	活動内容の確認	前期のゼミでの活動の反省と確認 【時間外学習】前期に配布した資料を整理し、確認しておく

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	大野　満奈				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
本ゼミでは、食品と経済のかかわりに興味をもち、食品に関して消費がどのようになされていくのかをSDGｓ達成に関連して考察していく。食品経済関する学外研修を多く行います。卒業研究の進捗状況報告を含めて、ゼミ生による発表も行う。本ゼミが取り上げるSDGsの目標11は2030年までに「住み続けられるまちづくりを」を目指すものであり、本ゼミでは、それら目標の達成に、焦点を当て探ることとする。

《授業の到達目標》
健康栄養学科に学ぶ学生としてふさわしい視点からSDGsを正しく理解し、問題意識をもって「行動する」ことへとつなげられる。特に、食品によって地域を活性化させるという視点に立って、各自の考えや意見を表明できるようにする。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
授業の都度必要に応じて資料を配布する

《参考図書》
令和4年度版　「さいたま市の農業」さいたま市経済局農業政策部農業政策課2023年3月発行

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
提出されたレポートは次回までにコメントし返却する。プレゼンテーションについては、その都度授業中にコメントしフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス	後期のゼミの取り組みのガイダンスを行う 【時間外学習】シラバスの内容について確認する
2	卒業研究について	卒業研究についての課題と予定する内容を発表する 【時間外学習】卒業研究について課題を決定しておく
3	卒業研究について	卒業研究について計画をたてる 【時間外学習】卒業研究についての目次を考えておく
4	卒業研究について	卒業研究について資料を検索する 【時間外学習】卒業研究についての書籍を用意しておく
5	卒業研究について	卒業研究個人論文を資料をまとめながら書き始める 【時間外学習】卒業研究について資料を熟読しておく
6	卒業研究について	卒業研究個人論文を資料をまとめながら書きすすめる 【時間外学習】卒業研究について資料を熟読しておく
7	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
8	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
9	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動（グループワーク）
10	卒業研究について	卒業研究個人論文を書き終え各自指導教員からの添削を受ける 【時間外学習】卒業研究について資料を熟読しておく
11	卒業研究について	卒業研究個人論文を書き終え各自指導教員からの添削を受ける 【時間外学習】卒業研究について資料を熟読しておく
12	卒業研究について	卒業研究グループ論文を個人論文をまとめて作成する 【時間外学習】卒業研究についてほかのゼミ員の論文を読んでおく
13	卒業研究発表	各自の卒業研究を発表する 【時間外学習】卒業研究の発表の準備をしておく
14	卒業研究グループ論文	卒業研究グループ論文を完成させ、指導教員からの添削を受ける 【時間外学習】卒業研究についてほかのゼミ員の論文を読んでおく
15	ポスターセッション発表	卒業研究成果の発表 卒業研究発表会で研究成果を発表する。（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	田中　政巳				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科（専攻）の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。
卒業研究は、研究の進行や研究結果の解析・考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身につける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を説明、討議することができる。
研究内容・成果を発表するこができる。
研究内容・成果を論文としてまとめることができる。
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修、論文の書き方・まとめ方、第一出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか、各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実施	2年次卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）
2	卒業研究の実施	2年次卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）
3	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
4	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
5	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
6	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの決定、研究方法の検討（グループワーク）
7	卒業研究の実施	研究テーマ（グループ研究、個人研究）をゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究計画の作成（グループワーク）
8	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
9	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
11	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
12	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
13	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
14	卒業研究の実施	前期卒業研究における進捗状況の報告（中間報告）（グループワーク）
15	卒業研究の実施	中間報告をもとに研究計画の見直しを行う。後期卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	田中　政巳				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科（専攻）の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。卒業研究は、研究の進行や研究結果の考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身につける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を説明、討議することができる。
研究内容・成果を発表するこができる。
研究内容・成果を論文としてまとめることができる。
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修、論文の書き方・まとめ方、第一出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか、各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実施	後期研究計画の確認。研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク
2	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
3	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
4	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
5	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
6	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
7	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
8	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
9	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究論文の作成
11	卒業研究の実施	研究論文の作成
12	卒業研究の実施	研究論文の作成
13	卒業研究の実施	卒業研究発表会資料（スライド、ポスター）の作成（グループワーク）
14	卒業研究の実施	発表用原稿の作成、卒業研究発会（口頭発表、ポスター発表）の練習（グループワーク）
15	卒業研究成果の発表	卒業研究発表会で研究成果を発表する。（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	安食　邦明				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科（専攻）の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。卒業研究は、研究の進行や研究結果の解析・考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身につける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を説明、討議することができる。
研究内容・成果を発表するこができる。
研究内容・成果を論文としてまとめることができる。
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が２項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修、論文の書き方・まとめ方、第一出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか、各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実施	2年次卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）
2	卒業研究の実施	2年次卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）
3	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
4	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
5	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
6	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの決定、研究方法の検討（グループワーク）
7	卒業研究の実施	研究テーマ（グループ研究、個人研究）をゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究計画の作成（グループワーク）
8	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
9	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
11	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
12	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
13	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
14	卒業研究の実施	前期卒業研究における進捗状況の報告（中間報告）（グループワーク）
15	卒業研究の実施	中間報告をもとに研究計画の見直しを行う。後期卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	安食　邦明				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科（専攻）の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。
卒業研究は、研究の進行や研究結果の考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身につける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を説明、討議することができる。
研究内容・成果を発表するこができる。
研究内容・成果を論文としてまとめることができる。
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が２項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修、論文の書き方・まとめ方、第一出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか、各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実施	後期研究計画の確認。研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク
2	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
3	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
4	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
5	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
6	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
7	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
8	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
9	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究論文の作成
11	卒業研究の実施	研究論文の作成
12	卒業研究の実施	研究論文の作成
13	卒業研究の実施	卒業研究発表会資料（スライド、ポスター）の作成（グループワーク）
14	卒業研究の実施	発表用原稿の作成、卒業研究発会（口頭発表、ポスター発表）の練習（グループワーク）
15	卒業研究成果の発表	卒業研究発表会で研究成果を発表する。（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	鈴木　玉枝				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科（専攻）の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。
卒業研究は、研究の進行や研究結果の解析・考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身につける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を説明、討議することができる。
研究内容・成果を発表するこができる。
研究内容・成果を論文としてまとめることができる。
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修、論文の書き方・まとめ方、第一出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか、各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実施	2年次卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）
2	卒業研究の実施	2年次卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）
3	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
4	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
5	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
6	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの決定、研究方法の検討（グループワーク）
7	卒業研究の実施	研究テーマ（グループ研究、個人研究）をゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究計画の作成（グループワーク）
8	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
9	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
11	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
12	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
13	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
14	卒業研究の実施	前期卒業研究における進捗状況の報告（中間報告）（グループワーク）
15	卒業研究の実施	中間報告をもとに研究計画の見直しを行う。後期卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	鈴木　玉枝				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科（専攻）の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。
卒業研究は、研究の進行や研究結果の考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身につける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を説明、討議することができる。
研究内容・成果を発表するこができる。
研究内容・成果を論文としてまとめることができる。
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修、論文の書き方・まとめ方、第一出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか、各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実施	後期研究計画の確認。研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク
2	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
3	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
4	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
5	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
6	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
7	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
8	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
9	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究論文の作成
11	卒業研究の実施	研究論文の作成
12	卒業研究の実施	研究論文の作成
13	卒業研究の実施	卒業研究発表会資料（スライド、ポスター）の作成（グループワーク）
14	卒業研究の実施	卒業研究発表会資料（スライド、ポスター）の作成（グループワーク） 発表用原稿の作成および練習
15	卒業研究の実施	卒業研究発表会（口頭発表、ポスター発表）への参加（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	長谷川　順子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科(専攻)の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ(グループ研究および個人研究)を決定後、必要な情報について各種手法を用いて検索して情報を整理したうえで、研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また、研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。卒業研究は、研究の遂行や研究結果の解析・考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身に着ける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を他者に説明(プレゼンテーション)し、討議(ディスカッション)することができる。
研究内容・成果を発表し、論文としてまとめることができる
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修：論文の書き方・まとめ方　第一出版
日本栄養改善学会監修：初めての栄養学研究論文　第一出版
村上健太郎編著：基礎から学ぶ栄養学研究　建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか　各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
各回の準備学習に示したように、毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むことができるように、自発的に学習を行うこと。（本授業は15時間の授業時間外学習が必要です。）
研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もあります。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究テーマの検討と研究計画の作成	各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ(グループ研究および個人研究)を決定後、2年次卒業研究の研究計画を作成する。(グループワーク)【準備学習】30分
2	卒業研究の調査の実施①	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク) 【準備学習】60分
3	卒業研究の調査の実施②	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク) 【準備学習】60分
4	卒業研究の調査の実施③	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク) 【準備学習】60分
5	卒業研究の調査の実施④	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク) 【準備学習】60分
6	卒業研究の調査の実施⑤	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク) 【準備学習】60分
7	模擬研究のまとめ	研究テーマ(グループ研究、個人研究)をゼミ教員および共同研究者(ゼミ生)と協議して決定し、研究計画を作成する。(グループワーク)【準備学習】90分
8	卒業研究の調査の実施⑥	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク) 【準備学習】60分
9	卒業研究の調査の実施⑦	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク) 【準備学習】60分
10	卒業研究の調査の実施⑧	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク) 【準備学習】60分
11	卒業研究の調査の実施⑨	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク) 【準備学習】60分
12	卒業研究の調査の実施⑩	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク) 【準備学習】60分
13	卒業研究の前期のまとめ	前期卒業研究をまとめる。(グループワーク) 【準備学習】60分
14	卒業研究の前期のまとめ	前期卒業研究における進捗状況の報告(中間報告)をする。(グループワーク) 【準備学習】60分
15	後期の卒業研究研究計画の作成	卒業研究の中間報告をもとに研究計画の見直しを行う。後期卒業研究の研究計画を作成する。(グループワーク) 【準備学習】60分

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	長谷川　順子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科(専攻)の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ(グループ研究および個人研究)を決定後、必要な情報について各種手法を用いて検索して情報を整理したうえで、研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また、研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。卒業研究は、研究の遂行や研究結果の解析・考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身に着ける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を他者に説明(プレゼンテーション)し、討議(ディスカッション)することができる。
研究内容・成果を発表し、論文としてまとめることができる
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修：論文の書き方・まとめ方　第一出版
日本栄養改善学会監修：初めての栄養学研究論文　第一出版
村上健太郎編著：基礎から学ぶ栄養学研究　建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか　各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
各回の準備学習に示したように、毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むことができるように、自発的に学習を行うこと。（本授業は15時間の授業時間外学習が必要です。）
研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もあります。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	後期の卒業研究の研究計画の確認	後期の研究計画の確認。研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。（グループワーク）【準備学習】30分
2	卒業研究の調査の実施①	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク）【準備学習】30分
3	卒業研究の調査の実施②	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク）【準備学習】30分
4	卒業研究の調査の実施③	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク）【準備学習】60分
5	卒業研究の調査の実施④	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク）【準備学習】60分
6	卒業研究の調査の実施⑤	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで、実験・文献調査・アンケート調査等を実施しながら随時結果をまとめ、解析する。(グループワーク）【準備学習】60分
7	ゼミ活動の発表の準備①	五峯祭におけるゼミ活動の発表の準備をする。(グループワーク) 【準備学習】60分
8	ゼミ活動の発表の準備②	五峯祭におけるゼミ活動の発表の準備をする。(グループワーク) 【準備学習】60分
9	ゼミ活動の発表	五峯祭におけるゼミ活動の発表をする。(グループワーク) 【準備学習】60分
10	卒業研究論文の作成①	研究論文を作成する。 【準備学習】60分
11	卒業研究論文の作成②	研究論文を作成する。 【準備学習】60分
12	卒業研究論文の作成③	研究論文を作成する。 【準備学習】60分
13	卒業研究発表の準備①	卒業研究発表会資料（スライド、ポスター）を作成する。（グループワーク） 【準備学習】90分
14	卒業研究発表の準備②	卒業研究発表会資料（スライド、ポスター）を作成する。（グループワーク） 【準備学習】90分
15	卒業研究のまとめ	卒業研究発表会（口頭発表、ポスター発表）の練習をする。（グループワーク） 【準備学習】90分

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	古俣　智江				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科（専攻）の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。
卒業研究は、研究の進行や研究結果の解析・考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身につける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を説明、討議することができる。
研究内容・成果を発表するこができる。
研究内容・成果を論文としてまとめることができる。
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修、論文の書き方・まとめ方、第一出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか、各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実施	2年次卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）
2	卒業研究の実施	2年次卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）
3	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
4	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
5	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
6	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの決定、研究方法の検討（グループワーク）
7	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
8	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
9	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
11	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
12	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
13	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
14	卒業研究の実施	前期卒業研究における進捗状況の報告（中間報告）（グループワーク）
15	卒業研究の実施	中間報告をもとに研究計画の見直しを行う。後期卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	古俣　智江				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科（専攻）の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。
卒業研究は、研究の進行や研究結果の考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身につける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を説明、討議することができる。
研究内容・成果を発表するこができる。
研究内容・成果を論文としてまとめることができる。
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修、論文の書き方・まとめ方、第一出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか、各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実施	後期研究計画の確認。研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク
2	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
3	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
4	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
5	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
6	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。（グループワーク）
7	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
8	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
9	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究論文の作成
11	卒業研究の実施	研究論文の作成
12	卒業研究の実施	研究論文の作成
13	卒業研究の実施	卒業研究発表会資料（スライド、ポスター）の作成（グループワーク）
14	卒業研究の実施	発表用原稿の作成、卒業研究発表会（口頭発表、ポスター発表）の練習（グループワーク）
15	卒業研究成果の発表	卒業研究発表会で研究成果を発表する（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	冨重　慶子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
栄養教育学ゼミに所属し、ゼミ担当教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。卒業研究は、研究の進行や研究結果の解析・考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
課題発見、解決、提案する力を身につける。先行研究調査、国民健康・栄養調査結果を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。研究内容を説明、討議することができる。研究内容・成果を発表するこができる。研究内容・成果を論文としてまとめることができる。さらに、スライドやポスターにまとめ、発表することができる。研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修、論文の書き方・まとめ方、第一出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
国民健康・栄養の現状、第一出版　　ほか

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、研究テーマに関する資料の検索、まとめをしてゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人またはグループでの研究進捗状況について随時指導教員に報告を行い、討議の中でその都度評価しフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の概要	卒業研究の進め方、卒業論文について卒業生の論文を参考に理解する。
2	卒業研究の概要	図書館の使用方法、論文検索の方法
3	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ担当教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
4	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ担当教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
5	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
6	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
7	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
8	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
9	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
11	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
12	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
13	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
14	卒業研究の実施	前期卒業研究おける進捗状況の報告（中間報告）
15	卒業研究の実施	中間報告をもとに研究計画の見直しを行う。後期卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	冨重　慶子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
栄養教育学ゼミに所属し、ゼミ担当教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。卒業研究は、研究の進行や研究結果の解析・考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
課題発見、解決、提案する力を身につける。先行研究調査、国民健康・栄養調査結果を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。研究内容を説明、討議することができる。研究内容・成果を発表するこができる。研究内容・成果を論文としてまとめることができる。さらに、スライドやポスターにまとめ、発表することができる。研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
日本栄養改善学会監修、論文の書き方・まとめ方、第一出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学　卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
国民健康・栄養の現状、第一出版　　ほか

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。授業時間外学習において、研究テーマに関する資料の検索、まとめをしてゼミに臨むこと。研究は正課授業時間外を活用して実施する場合もある。授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人またはグループでの研究進捗状況について随時指導教員に報告を行い、討議の中でその都度評価しフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の概要	卒業研究の進め方、卒業論文について卒業生の論文を参考に理解する。
2	卒業研究の概要	図書館の使用方法、論文検索の方法
3	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ担当教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
4	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ担当教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索（グループワーク）
5	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
6	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
7	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
8	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
9	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
11	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
12	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
13	卒業研究の実施	研究計画に沿って、ゼミ担当教員のもとで卒業研究を実施する。文献や先行研究調査、アンケート調査等を行い、随時その結果を記録しまとめる。（グループワーク）
14	卒業研究の実施	前期卒業研究おける進捗状況の報告（中間報告）
15	卒業研究の実施	中間報告をもとに研究計画の見直しを行う。後期卒業研究の研究計画を作成する。（グループワーク）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	甲山　恵美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科（専攻）の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。
研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。
卒業研究は、研究の進行や研究結果の解析・考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身につける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を説明、討議することができる。
研究内容・成果を発表するこができる。
研究内容・成果を論文としてまとめることができる。
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
桑田てるみ他、学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版スキルを学ぶ21のワーク、実教出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか、各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。
授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。
研究は授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実施	2年次卒業研究の研究計画を作成する。
2	卒業研究の実施	2年次卒業研究の研究計画を作成する。
3	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
4	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索
5	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの検討、先行研究の検索
6	卒業研究の実施	研究テーマをゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究テーマの決定、研究方法の検討
7	卒業研究の実施	研究テーマ（グループ研究、個人研究）をゼミ教員および共同研究者（ゼミ生）と協議して決定し、研究計画を作成する。研究計画の作成
8	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
9	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
10	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
11	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
12	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
13	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
14	卒業研究の実施	前期卒業研究における進捗状況の報告（中間報告）
15	卒業研究の実施	中間報告をもとに研究計画の見直しを行う。後期卒業研究の研究計画を作成する。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	甲山　恵美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
学科（専攻）の研究班あるいは研究領域のゼミに所属し、各ゼミの指導教員と協議して研究テーマ（グループ研究および個人研究）を決定し研究を行う。
研究結果を解析・考察し論文にまとめる。また研究内容・成果を口頭またはポスター発表する。
卒業研究は、研究の進行や研究結果の解析・考察を、各研究グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
問題発見、解決、提案する力を身につける。
実験、観察、調査を通して調べたことを、文章や図表にまとめることができる。
研究内容を説明、討議することができる。
研究内容・成果を発表するこができる。
研究内容・成果を論文としてまとめることができる。
研究倫理を遵守できる。

《成績評価の方法》
卒業研究論文を提出するとともに、卒業研究ルーブリックに基づく教員の評価において評価項目の初期段階が2項目以下を合格とする。

《テキスト》
必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》
桑田てるみ他、学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版スキルを学ぶ21のワーク、実教出版
日本栄養改善学会監修、初めての栄養学研究論文、第一出版
村上健太郎、基礎から学ぶ栄養学研究、建帛社
国際学院埼玉短期大学卒業研究・特別研究論文抄録集、概要集
ほか、各ゼミの指導教員が指示する。

《授業時間外学習》
毎回の授業について１時間の授業時間外学習が必要である。
授業時間外学習において、準備学習として毎回のゼミ活動の内容をまとめ、次回のゼミに臨むこと。
研究は授業時間外を活用して実施する場合もある。各ゼミで授業日が変更となることがあるため、日程は十分に把握すること。

《課題に対するフィードバック等》
各人が研究の進捗状況報告を毎回のゼミで随時行い、積極的に指導教員や共同研究者(ゼミ生)と討論することにより、研究遂行にフィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実施	後期研究計画の確認。研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
2	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
3	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
4	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
5	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
6	卒業研究の実施	研究計画に沿ってゼミ教員のもとで卒業研究を実施する。実験・文献調査・アンケート調査等の実施。随時結果をまとめ、解析する。
7	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
8	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動の準備（グループワーク）
9	卒業研究の実施	五峯祭におけるゼミ活動（グループワーク）
10	卒業研究の実施	研究論文の作成
11	卒業研究の実施	研究論文の作成
12	卒業研究の実施	研究論文の作成
13	卒業研究の実施	卒業研究発表会資料（スライド、ポスター）の作成
14	卒業研究の実施	卒業研究発表会資料（スライド、ポスター）の作成 発表用原稿の作成
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会（口頭発表、ポスター発表）

《専門科目》

科目名	公衆衛生学Ⅱ				
担当者氏名	金山　喜一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
公衆衛生学Ⅱでは、人間集団における健康障害要因の発生予防および社会保障と福祉に関する事項に関して学習を進める。具体的には社会保障と社会福祉、疫学的解析手法およびその現状把握と問題点、予防医学に関連した疾病予防対策の現状、衛生行政としての地域保健活動と保健医療制度などの基本事項を学ぶ。一部のテーマでは、必要に応じ、課題のグループワーク、プレゼンテーションを行い、主体的な学習を実践する。

《授業の到達目標》
①疫学について理解し、説明できる。さらに、人間集団の健康の保持と管理・増進の目的とアプローチについて説明できる。②疾病予防と健康管理、病因および環境に関る要因について説明できる。③感染症と非感染性疾患の定義と具体例を挙げることができる。④社会保障と社会福祉に関する基本的事項と現状を習得し、公衆衛生分野における栄養士の職域の重要性を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》
定期試験(80%)と授業内課題及び小テスト(20%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
社会・環境と健康：柳川洋、尾島俊之編著、公衆衛生学。2025年版、医歯薬出版(株)。

《参考図書》
①国民衛生の動向：（財）厚生労働統計協会。
②公衆衛生マニュアル：中村好一、佐伯圭吾、編集。南山堂。

《授業時間外学習》
①毎回受講後にノートを整理、復習するとともに次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておく。
②毎回の授業には、予習と復習に4時間の授業時間外自己学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》
提出された授業内課題や小テストは次回以降の講義内に講評などを添えてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	社会保障と社会福祉（1） 社会福祉概論	社会福祉の歴史、児童・母子・高齢者福祉、社会福祉施設の現状、社会福祉関連法規。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第11章）をベースに予習と復習。
2	社会保障と社会福祉（2） 社会保障概論	保健医療福祉行政、衛生行政の体系、保健・医療・福祉の関連法規。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第11章）をベースに予習と復習。
3	疫学 （1）疫学解析と評価	疫学の概念、健康障害の発生要因、疫学の対象と疫学研究方法の分類。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第3、４章）をベースに予習と復習。
4	疫学 （2）健康と疾病状態	観察研究と介入研究、症例対照研究、コホート研究、サーベランス、スクリーニング。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第3、４章）をベースに予習と復習。
5	疾病予防と健康管理 （1）感染症の疫学	感染と発症、感染症の分類、感染症の発生要因、新興感染症、再興感染症、感染症の流行、関連法規。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第８章）をベースに予習と復習。
6	疾病予防と健康管理 （2）感染症予防の基本	感染症予防の基本原則：感染源対策、感染経路対策、感受性宿主対策、予防接種、滅菌・殺菌・消毒。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第８章)をベースに予習と復習。
7	疾病予防と健康管理 （3）非感染症の疫学	非感染症の発生要因、非感染症（悪性新生物、循環器系疾患、呼吸器疾患など）の疫学と予防対策。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第８章）をベースに予習と復習。
8	疾病予防と健康管理 （4）健康管理と増進	予防医学の概念、国民健康づくり、国民健康栄養調査、健康増進法、食育基本法。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第１、３、６、１５章）をベースに予習と復習。
9	学校保健	学校保健の概要、学校保健安全法、学校保健行政の動向、学校保健関連法規。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第20章）をベースに予習と復習。
10	母子保健	母子保健の概要、母子保健活動と国民運動計画、母子保健法、児童福祉法、児童虐待防止法。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第１6章）をベースに予習と復習。
11	成人・老人保健	成人・老人保健の概要、がん対策基本法、高齢者虐待防止法、高齢者医療確保法、介護保険法。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第18、19章）をベースに予習と復習。
12	産業保健	産業保健の概要、作業環境と健康、職業病、産業保健の現状と動向、労働基準法、労働安全衛生法。質疑応答。〔準備学習〕教科書（19章）をベースに予習と復習。
13	精神保健	精神保健の歴史、精神保健福祉法、精神障害の現状、精神保健の問題点。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第９章）をベースに予習と復習。
14	地域保健と衛生行政	衛生行政と地域保健、衛生行政の役割、衛生行政組織と地域保健活動。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第11、14章）をベースに予習と復習。
15	保健医療の制度と法規	保健医療行政機構と法規、医療制度と医療行政、医療保障、衛生関連法規。。質疑応答。〔準備学習〕教科書（第11、12章）をベースに復習。

《専門科目》

科目名	生化学				
担当者氏名	田中　政巳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
1年次に学んだ基礎生化学を基礎として、本科目によりたんぱく質、糖質、脂質などの栄養素やその他の生体物質の代謝について理解を深める。さらに酵素、ビタミンおよびホルモンによる生体機能の調節について学習する。一部のテーマでは課題のプレゼンテーションをおこない、主体的に学習に取り組む場とする。

《授業の到達目標》
栄養素の構造と特徴を説明できる。
栄養素の消化、吸収および代謝を説明できる。
栄養素の生体内での役割を説明できる。
酵素の種類と特性を説明できる。
無機質とビタミンの種類と機能を説明できる。
ホルモンの種類と機能を説明できる。
免疫とアレルギーについて説明できる。

《成績評価の方法》
定期試験(80%)と授業内課題及び小テスト等(20%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
生化学　ヒトのからだの構成と働きを学ぶために
小野廣喜、千裕美、吉澤みな子、日比野久美子　著　化学同人

《参考図書》
イラストレイテッドリッピンコット生化学　丸善
レーニンジャー　新生化学　上下　廣川書店

《授業時間外学習》
教科書や図書館に蔵書する参考書、配布資料及び作成したノートを用いて復習を行い、重要な事項を整理すること。
毎回の授業について、復習を中心に4時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》
提出された授業内課題や小テストは次回の授業で問題の解説などを行いフィードバックすることを原則としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	基礎生化学の復習 細胞等	細胞、組織、器官、遺伝子 （予習1時間、復習3時間）
2	基礎生化学の復習 栄養素等	栄養素の消化・吸収 生体エネルギー、ATPの役割（予習1時間、復習3時間）
3	糖質 構造と機能	糖質の構造と機能 （予習1時間、復習3時間）
4	糖質 代謝	糖質の代謝 解糖系、クエン酸回路、電子伝達系（予習1時間、復習3時間）
5	たんぱく質 構造と機能	たんぱく質・アミノ酸の構造・機能・代謝 酵素の一般的性質（予習1時間、復習3時間）
6	たんぱく質 酵素	酵素の特性、酵素反応の阻害、酵素の種類 （予習1時間、復習3時間）
7	脂質 構造と機能	脂質の構造と機能 飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸（予習1時間、復習3時間）
8	脂質 代謝	脂質の代謝 β酸化（予習1時間、復習3時間）
9	水と無機質	水、体液 無機質の種類と機能（予習1時間、復習3時間）
10	ビタミン	水溶性ビタミン・脂溶性ビタミンの種類と機能、ビタミン欠乏症 （予習1時間、復習3時間）
11	ホルモン 構造	生体内情報伝達物質、　ホルモンの分類と構造、ペプチドホルモン、ステロイドホルモン、アミンホルモン（予習1時間、復習3時間）
12	ホルモン 作用機構	ホルモンの作用機構 ホルモンの分泌調節（予習1時間、復習3時間）
13	ホルモン 種類と機能	ホルモンの種類と機能 ホルモンによる代謝調節（予習1時間、復習3時間）
14	免疫・アレルギー 免疫	免疫細胞、サイトカイン 細胞性免疫、体液性免疫、抗原抗体反応（予習1時間、復習3時間）
15	免疫・アレルギー アレルギー	自己免疫 アレルギーの種類（予習1時間、復習3時間）

《専門科目》

科目名	生化学実習				
担当者氏名	田中　政巳				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
基礎生化学および生化学で学んだ知識を、実験を通して確認し、生体内での物質・栄養素の代謝や機能についてさらに理解を深める。実習では、生体物質の抽出や定量、酵素反応などに関する実験等を行う。また、実験を行なう上で必要な技術、実験機器・器具等の扱い方についての基礎を身につける。実習は、実験の進行や実験結果の考察を、グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
実習を通して基礎的な生化学的実験技術を身につける。
栄養素や生体物質の機能およびこれらを調節するしくみを説明できる。
酵素反応の特性を説明できる。
実験結果について討議できる。
実習内容をレポートにまとめることができる。

《成績評価の方法》
実習レポート(70%) および授業内課題、授業態度等(30%) によって行う。授業態度は、実習への取り組み状況を特に評価する。
これらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
プリントを配布する。

《参考図書》
生化学　ヒトのからだの構成と働きを学ぶために　化学同人
イラストレイテッドリッピンコット生化学　丸善
レーニンジャー　新生化学　上下　廣川書店

《授業時間外学習》
各回の実習後は結果をまとめ、深く考察をして、実習レポートを作成する。
基礎生化学および生化学の講義において学習した人体の構造と機能について、実習を通してさらに理解を深める。

《課題に対するフィードバック等》
実習に積極的に臨むこと。授業内課題は問題の解説等次回の授業でフィードバックすることを原則としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	生化学実習の基礎	生化学実習の概要、実験の心得、実験器具の取り扱い、試薬の取り扱い、危険物・廃棄物の取扱い、レポート作成について（事後学習：本日の内容の復習）
2	血糖値	血糖の測定（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
3	検量線	検量線の作成、検量線による血糖値の定量（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
4	脂質の定量	コレステロールの定量（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
5	核酸の実験	DNAの抽出、DNAの定性（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
6	栄養素の消化 糖質とアミラーゼ	糖質の消化、アミラーゼによるでんぷんの消化（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
7	栄養素の消化 たんぱく質とペプシン	たんぱく質の消化、ペプシンによる凝固卵白の消化（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
8	栄養素の消化 糖質と膵酵素	糖質の消化、膵酵素によるでんぷんの消化（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
9	栄養素の消化 たんぱく質と膵酵素	たんぱく質の消化、膵酵素によるゼラチンの消化（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
10	栄養素の消化 脂質と膵酵素	脂質の消化、膵酵素による牛乳の消化（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
11	酵素の実験 反応時間の影響	酵素反応速度における反応時間の影響（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
12	酵素の実験 pHの影響	酵素反応速度におけるpHの影響（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
13	酵素の実験 基質濃度の影響	酵素反応速度における基質濃度の影響（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
14	酵素の実験 酵素阻害剤の影響	酵素反応速度における酵素阻害剤の影響、酵素阻害剤の阻害様式の解析（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
15	酵素の実験 総括	酵素の実験の総括（データ処理、解析、考察）、生化学実習の確認、実験機器・器具の整理と片付け（事後学習：実験レポートの作成）

《専門科目》

科目名	病理学				
担当者氏名	金山　喜一				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

食物から摂取する各種の栄養素は健康の維持に不可欠である。また、それらのアンバランスは種々の疾患を引き起こす。つまり、「医食同源」であるという観点から、医療機関では栄養士はチーム医療の一翼を担っている。本講義では、病理学の基本事項を学習し、一部のテーマでは、必要に応じ、課題のグループワーク、プレゼンテーションを行い、主体的な学習を実践する。

《授業の到達目標》

①医科学における病理学の位置付けについて説明することができる。②病理学を構成する基本的事項（炎症、変性、壊死とアポトーシス、腫瘍（ガンと肉腫）など）を説明することができる。③消化器、心臓・循環器、脳、腎・泌尿器、呼吸器の主要疾患ならびに主な代謝疾患、アレルギー・自己免疫疾患について説明することができる。

《成績評価の方法》

定期試験(80%)と授業内課題及び小テスト(20%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

栄養科学イラストレイテッド　臨床医学　疾病の成り立ち　第３版　田中明、藤岡由夫編　羊土社　2024

《参考図書》

1）山口和克監修、病気の地図帳、講談社、2009年
2）渡辺照男編集、カラーで学べる病理学、第５版、ヌーヴェルヒロカワ、2021（年度版）

《授業時間外学習》

①毎回受講後にノートを整理、復習するとともに次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておく。
②毎回の授業には、予習と復習に4時間の授業時間外自己学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

提出された授業内課題や小テストは次回以降の講義内に講評などを添えてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	病理学総論	炎症、変性、壊死とアポトーシス、腫瘍（ガンと肉腫）など。 ［準備学習］テキスト第２章の関連項目を予習すること。
2	消化器疾患	炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）など。 ［準備学習］テキスト第６章の関連項目を予習すること。
3	循環器疾患① （虚血性心疾患など）	狭心症、心筋梗塞。 ［準備学習］テキスト第８章の関連項目を予習すること。
4	循環器疾患② （脳血管障害など）	脳卒中、脳出血、クモ膜下出血、脳梗塞。 ［準備学習］テキスト第８章の関連項目を予習すること。
5	腎・尿路系疾患	腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病腎症、ＣＫＤ（慢性腎臓病）など。 ［準備学習］テキスト第９章の関連項目を予習すること。
6	呼吸器疾患	気管支喘息、肺炎、ＣＯＰＤ（慢性閉塞性肺疾患）など。 ［準備学習］テキスト第１１章の関連項目を予習すること。
7	代謝系疾患	糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、メタボリックシンドロームなど。 ［準備学習］テキスト第４章の関連項目を予習すること。
8	骨格系疾患、アレルギー性疾患	骨粗鬆症、ロコモティブシンドローム、関節リウマチ、自己免疫疾患、膠原病など。 ［準備学習］テキスト第１３章と１５章の関連項目を予習すること。
9	–	–
10	–	–
11	–	–
12	–	–
13	–	–
14	–	–
15	–	–

《専門科目》

科目名	食品衛生学				
担当者氏名	金山　喜一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
種々の微生物、化学物質、食品添加物等が食品にどのように関係し、人の健康にどのように影響するのかを体系的に学習する。併せて正確な食品衛生に関する科学的知識を身につけ、健康危害の発生予防法と関連法令および行政の役割等について学修する。一部のテーマにおいては、必要に応じ、課題のグループワーク、プレゼンテーションを行い、主体的な学習を実践する。

《授業の到達目標》
①食品衛生法の食品の定義と範囲及び食品衛生行政の概要について述べることができる。
②食中毒の発生状況と起因物質（主な細菌性食中毒菌、ウイルス）の特性、中毒症状、予防対策について説明できる。
③主な食品添加物の特性、有効性等について説明できる。
④食品の安全性保持のため、衛生的取扱いを日常生活において実践できる。

《成績評価の方法》
定期試験（80%）と授業内課題および小テスト（20%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
栄養科学イラストレイテッド　食品衛生学　田崎達明編
羊土社

《参考図書》
①廣末トシ子 安達修一編「新食品衛生学要説」医歯薬出版㈱ 2023
②栄養士実力認定試験過去問題集 全国栄養士養成施設協会編 2022年版

《授業時間外学習》
①受講後にノートを整理するとともに次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておく。②毎回の授業には、予習と復習に4時間の授業時間外自己学習を必要とする。③食品による事故・事件等が多いことから、新聞、テレビ等で食品関連の報道に関心を払い、原因・再発防止等の対策を学ぶこと。

《課題に対するフィードバック等》
提出された授業内課題や小テストは、次回以降の講義内に講評などを添えてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	食品衛生と関連法規と日本の食品衛生行政	食品衛生行政の概要、食品衛生に関する関連法規。 【準備学習】テキスト第1章の上記項目を予習すること。
2	食品と微生物	食品に関与する微生物、細菌の増殖と環境要因など。 【準備学習】テキスト第2章の上記項目を予習すること。
3	食品の変質とその防止	食品の変質と有害物質、変質の評価・判定、腐敗等、食品の変質の防止法。 【準備学習】テキスト第2章の上記項目を予習すること。
4	食中毒の概要	食中毒の定義、食中毒の種類、食中毒発生状況など。 【準備学習】テキスト第3章の上記項目を予習すること。
5	細菌性感染型食中毒	感染型食中毒菌（サルモネラ属菌、腸炎ビブリオ、病原大腸菌、カンピロバクター等）。 【準備学習】テキスト第3章の上記項目を予習すること。
6	細菌性毒素型食中毒	毒素型食中毒菌（ブドウ球菌、ボツリヌス菌、セレウス菌（嘔吐型）） 【準備学習】テキスト第3章の上記項目を予習すること。
7	ウイルス性食中毒	食中毒を引き起こすウイルス（ノロウィルス、ロタウイルスなど） 【準備学習】テキスト第3章の上記項目を予習すること。
8	食品衛生に関する人獣共通感染症	主な人獣共通感染症（SARS、エルシニア症、トリヒナ（旋毛虫）症、野兎病など） 【準備学習】テキスト第3章の上記項目を予習すること。
9	魚介類から感染する寄生虫性疾患	アニサキス症、顎口虫症、肺吸虫症、肝吸吸虫症、裂頭条虫症など。 【準備学習】テキスト第3章の上記項目を予習すること。
10	肉類から感染する寄生虫性疾患	トキソプラズマ症、マンソン裂頭条虫症、犬回虫症、アジア条虫症など。 【準備学習】テキスト第3章の上記項目を予習すること。
11	野菜・水から感染する寄生虫性疾患	エキノコックス症、ジアルジア症、クリプトスポリジウム症、鞭虫症、鉤虫症など。 【準備学習】テキスト第3章の上記項目を予習すること。
12	化学物質による食中毒と自然毒	ヒスタミン、水銀、PCB、動物性自然毒と植物性自然毒（フグ毒、キノコ毒など）。 【準備学習】テキスト第3章の上記項目を予習すること。
13	食品中の汚染物質	カビ毒、内分泌かく乱物質、有害元素、放射性物質などと異物混入。 【準備学習】テキスト第4章の上記項目を予習すること。
14	食品添加物および残留農薬	主な食品添加物（甘味料、殺菌料、酸化防止剤、着色料、保存料など）と残留農薬。 【準備学習】テキスト第5章の上記項目を予習すること。
15	食品衛生管理と食品表示制度	HACCPシステム、ISO、食品表示制度、保健機能食品、特定保健用食品など。 【準備学習】テキスト第6章、第7章の上記項目を予習すること。

《専門科目》

科目名	臨床栄養学各論				
担当者氏名	鈴木　玉枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能				

《授業の概要》
臨床栄養学総論において、栄養と関連深い疾患の概要、成因、症状、合併症、診断、治療法の基本的項目を学んだことを基礎に、臨床栄養学各論では、栄養学の臨床への実践的展開の方法として、栄養食事療法の原則や実際について理解し、病態から臨床検査結果、栄養素へのつながりについての基本を修得する。

《授業の到達目標》
栄養食事療法の原則や実際について概説できる。
各病態の臨床検査結果、栄養素とのつながりについて概説できる。

《成績評価の方法》
定期試験（80%）、授業内課題及び小テスト等（20%）で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
本田佳子編栄養科学イラストレイテッド「臨床栄養学　疾患別」羊土社
「糖尿病食事療法のための食品交換表第7版」文光堂

《参考図書》
授業内で紹介する。

《授業時間外学習》
教科書に記載されていない内容についても触れるので、ノートをとり整理すること。毎回の確認テストを行うので、予習、復習により知識の定着を図ること。（範囲については、前回の授業内容とする）
本授業では各授業で4時間(60時間)の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》
毎回の確認テストは採点後返却されるので、活用して知識の定着を図ること。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	治療食の基礎知識 摂食嚥下障害	治療食の意義と分類、摂食嚥下障害患者に対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。摂食嚥下障害について予め学習しておくこと。
2	消化管疾患 （上部・下部消化管）	胃・十二指腸、腸疾患患者に対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。　確認テストを行うので、予習復習すること。
3	代謝系疾患（肥満症）・栄養障害、内分泌系疾患	肥満症、栄養障害、内分泌系疾患に対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。　確認テストを行うので、予習復習すること。
4	代謝性疾患（糖尿病）	糖尿病患者に対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。 確認テストを行うので、予習復習すること。
5	代謝性疾患（脂質異常症、高尿酸血症、痛風）	代謝性疾患について学ぶ。提示した症例に対する栄養管理について、ディスカッションを行う。(グループディスカッション)確認テストを行うので、予習復習すること。
6	循環器系疾患（動脈硬化症、虚血性心疾患）	循環器系疾患、脳血管疾患に対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。　確認テストを行うので、予習復習すること。
7	循環器系疾患（高血圧）、呼吸器系疾患	循環器系疾患について学び、症例検討、ディスカッションを行う。(グループディスカッション)　確認テストを行うので、予習復習すること。
8	腎・尿路系(泌尿器系)疾患（腎炎）	提示した症例に対する栄養管理について学び、症例検討、ディスカッションを行う。(グループディスカッション)確認テストを行うので、予習復習すること。
9	腎・尿路系(泌尿器系)疾患（慢性腎臓病）	慢性腎不全、透析療法などCKDの患者に対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。　確認テストを行うので、予習復習すること。
10	肝・胆・膵疾患（肝疾患）	肝・胆・膵疾患に対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。確認テストを行うので、予習復習すること。
11	肝・胆・膵疾患（膵・胆道系疾患）	胆石症、膵炎に対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。　確認テストを行うので、予習復習すること。
12	血液・造血器系疾患、免疫・アレルギー系疾患	貧血、白血病、アレルギー疾患、自己免疫性疾患などに対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。　確認テストを行うので、予習復習すること。
13	運動器系疾患、老年症候群、神経・精神系疾患	骨粗鬆症、サルコペニア、老年症候群、摂食障害に対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。　確認テストを行うので、予習復習すること。
14	がんとターミナルケア、周術期クリティカルケア	がんとターミナルケア、周術期の管理、クリティカルケアについて学ぶ。 確認テストを行うので、予習復習すること。
15	小児疾患、妊産婦疾患	先天性代謝異常症、妊産婦疾患に対する栄養食事療法の原則、栄養アセスメントについて学ぶ。　確認テストを行うので、予習復習すること。

《専門科目》

科目名	臨床栄養学実習Ⅰ				
担当者氏名	鈴木　玉枝				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

個々の病態に即した栄養補給を行うことを目的とし、臨床栄養学各論で学んだ理論を元に、傷病者の栄養状態を正確に把握し、治療食を計画・立案できる能力・技術を身につける。臨床栄養学各論と連動するため、同時履修が望ましい。

《授業の到達目標》

一般食の献立が食品構成から作成できる。
一般食の献立から各治療食への展開献立の作成ができる。
食品交換表(糖尿病・腎臓病)について理解・使用ができる。

《成績評価の方法》

各回の献立・ノート等提出物（70％）、小テスト・授業・実習態度（30％）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

玉川和子ほか「臨床調理」医歯薬出版
日本糖尿病学会編「糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版」文光堂　黒川清監修「腎臓病食品交換表」医歯薬出版

《参考図書》

長浜　幸子他「実践臨床栄養学実習」第一出版　2020
女子栄養大学出版部「調理のためのベーシックデータ」最新刊

《授業時間外学習》

授業前に該当する部分を熟読し、実習後は記入し完成させること。
各回の課題を期限内に提出すること。

《課題に対するフィードバック等》

課題は、授業等で説明等をしながらフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	臨床栄養学の基礎知識と一般治療食の基礎	病院食の食種、献立作成のポイント、常食から全粥食、軟菜食への展開食の献立を作成する。〔準備学習〕事前に治療食の種類について学習しておくこと。
2	一般治療食の調理実習	常食、全粥食、五分粥食についての調理実習を行い、一般食の調理法について学ぶ。〔準備学習〕事前に献立の調理法を確認しておく。
3	摂食機能と形態食について	提示した症例(摂食嚥下困難)に対する栄養管理について、ディスカッションを行う。(グループディスカッション)〔準備学習〕高齢者の特徴について、予習しておくこと。
4	摂食機能と形態食の調理実習	流動食、ミキサー食、きざみ食、一口大きざみ食を実習し、とろみ剤の調理実習、低栄養適応栄養剤について学ぶ。〔準備学習〕実習記録を作成すること。
5	糖尿病の食事療法と献立作成	エネルギーコントロール食の食事療法、エネルギーコントロール食の献立を作成する。〔準備学習〕糖尿病の交換表について学習して臨むこと。
6	症例検討(糖尿病の栄養管理)	提示した症例(糖尿病)に対する栄養管理について、ディスカッションを行う。(グループディスカッション)〔準備学習〕展開献立課題を提出すること。
7	エネルギーコントロール食の調理実習	糖尿病食、糖尿病塩分制限食の調理実習を行い、食事療法について学ぶ。〔準備学習〕展開献立課題を提出すること。
8	腎臓病の食事療法と献立作成	腎臓病の献立作成のポイント、低たんぱく食と特殊食品，腎臓病食の献立を作成する。〔準備学習〕腎臓病交換表について、指定箇所を学習して臨むこと
9	たんぱく質コントロール食の調理実習	たんぱく質コントロール食の調理実習、特殊食品の利用効果を検討する。〔準備学習〕献立作成の課題を提出すること。
10	脂質コントロール食の食事療法と献立作成	脂質コントロール食の献立作成のポイントを学ぶ。脂質コントロール食の献立を作成する。〔準備学習〕脂質コントロールが必要な疾患や病態について学習して臨むこと。
11	脂質コントロール食の調理実習	脂質コントロール食の調理実習　　〔準備学習〕予め中性脂肪コントロール、コレステロールコントロールのポイントを整理して臨む。
12	栄養アセスメント	モデル症例について各班で検討する。(グループディスカッション)〔準備学習〕アセスメントについて1年時の復習をしておくこと。
13	自主献立作成	モデル症例について献立を作成し発注書を作成する。(グループディスカッション)〔準備学習〕班毎に価格調査、実習手順などを分担して作成し実習に備える。
14	自作献立の調理実習	第13回に作成した班献立の調理実習をし、相互評価する。〔準備学習〕事前に配布された各班の献立を検討し、当日の評価に臨む。
15	班献立評価、症例検討発表	モデル症例についてプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。(発表と相互評価)〔準備学習〕事前に配布された各班の資料を検討し、当日の評価に臨む。

《専門科目》

科目名	栄養指導実習Ⅰ				
担当者氏名	冨重　慶子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能				

《授業の概要》
栄養指導では対象者が健康増進に向けた食生活や行動変容を自発的に行うことができるよう動機付け、対象者のQOLの構築に貢献するような指導計画の立案が不可欠である。対象者の実態把握により問題点を明らかにし、ニーズに適した効果的な栄養指導が展開できる技術を身につける。さらに、グループワーク、模擬指導を通して実践的に学ぶ。

《授業の到達目標》
個人及び集団の栄養指導を行うため、実態把握や計画作成ができる。栄養指導の実施・評価をすることができる。

《成績評価の方法》
レポート、課題(80%)、発表(20%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
片井加奈子他編「栄養教育論実習　第3版(栄養科学シリーズNEXT)」講談社サイエンティフィク、奥嶋 佐知子「食品の栄養とカロリー事典」女子栄養大学出版部

《参考図書》
「日本食品成分表」医歯薬出版

《授業時間外学習》
課題については授業時間内に収まるよう時間を設けているが、終了できない場合は授業時間外の時間を使い効率よく進める。また、発表に際しては、十分に準備する必要があることから、授業時間外の時間を使って練習等を入念に行う。

《課題に対するフィードバック等》
課題プリントおよびレポートが期限内に提出できたか、また内容がふさわしいか確認し、不十分な場合は再提出に向けて指導を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	栄養教育・指導の概要	栄養教育・指導の意義と展開 準備学習：栄養指導論で学んだ栄養指導の意義について復習しておくこと。
2	栄養評価（栄養状態把握）	身体計測、栄養状態、健康状態の把握 準備学習：身体状況の把握、身体計測方法について予習しておくこと。
3	栄養評価（生活実態調査①）一週間当たり	生活実態調査、消費エネルギー量算定(メッツ）、エネルギー調整の計画案作成 準備学習：一週間分の生活活動記録をつけておくこと。
4	栄養評価（生活実態調査②）一日当たり	生活実態調査、一日当たり消費エネルギー量算定 準備学習：一日分の生活活動記録をつけておくこと。
5	栄養評価（食事調査）	食事調査、栄養価算定 準備学習：食事調査の意義および栄養価算定の方法を予習しておくこと。
6	栄養教育・指導（栄養・食品比率評価）	栄養価算定、栄養・食品比率評価 準備学習：PFC比などを使った評価法について予習しておくこと。
7	栄養教育・指導（食事摂取基準の求め方）	食事摂取基準の求め方 準備学習：日本人の食事摂取基準2020年について予習しておくこと。
8	栄養教育・指導（問診、行動変容に向けて）	個人栄養教育・指導準備、問診、準備性を高める必要条件 準備学習：個人栄養教育・指導について予習しておくこと。
9	栄養教育計画（計画立案）	集団栄養教育・指導のためのテーマ検討及び計画立案（グループワーク） 準備学習：栄養教育・指導計画の作成方法について予習しておくこと。
10	栄養教育計画（計画立案、教材の検討）	計画立案、集団栄養教育・指導に適した教材の検討（グループワーク） 準備学習：集団栄養教育・指導の方法について予習しておくこと。
11	教材作成作業（指導媒体の作成）	集団栄養教育・指導内容に適した指導媒体の作成（グループワーク） 準備学習：指導媒体の作成について予習しておくこと。
12	教材作成作業（指導媒体の作成、発表準備）	模擬集団栄養教育・指導の指導媒体の作成、発表準備（グループワーク） 準備学習：模擬集団栄養指導の発表方法について予習しておくこと。
13	発表（模擬集団指導１）評価	模擬集団栄養教育・指導（１）（グループワーク、相互評価） 準備学習：模擬集団栄養指導を実施するための事前練習を行っておくこと。
14	発表（模擬集団指導２）評価	模擬集団栄養教育・指導（２）（グループワーク、相互評価） 準備学習：模擬集団栄養指導を実施するための事前練習を行っておくこと。
15	発表（模擬集団指導３）評価	模擬集団栄養教育・指導（３）（グループワーク、相互評価） 準備学習：模擬集団栄養指導を実施するための事前練習を行っておくこと。

《専門科目》

科目名	給食管理実習				
担当者氏名	長谷川　順子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
1年前・後期に開講した「給食計画論」と「給食実務論」で学んだ知識を踏まえて、各人が栄養士・調理員業務を実践する。グループで協力して、給食運営における一連の管理業務(栄養・食事管理、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた安全・衛生管理、品質管理、生産管理、提供管理など)を行い、「校外実習」や将来給食施設の栄養士として必要な知識を深め、技能、態度、考え方の総合的な能力を養う。

《授業の到達目標》
・給食づくりは共同作業である。この授業を通し他者との共働の精神、信頼関係を築くことができる。・限られた調理担当者数(人)、施設・設備(物)、食材料費(金)、時間などの条件下で、喫食者の健康管理並びに満足が得られる給食づくりのための食事計画や献立計画、調理作業計画を作成できる。・栄養士として給食の目的を達成するために必要な、給食施設の衛生管理、食材料管理、栄養管理について説明できる。

《成績評価の方法》
全体で100%とし、「定期試験(筆記)30%」「グループで協力して課題作成に取り組み給食管理で必要な帳票類等の作成ができる25%」「報告会で実習の予定と実施した内容の変更点や問題点について今後の対策の説明ができる25%」「レポート20%」で総合的に評価し60点以上を合格とする。

《テキスト》
加藤由美子他編者：給食経営管理テキスト第6版 学建書院松月弘恵他編者：トレーニーガイド PDCAによる給食マネジメント実習第2版医歯薬出版株式会社 本学独自の実習用テキスト冊子

《参考図書》
・日本食品成分表2025(八訂)医歯薬出版株式会社・調理のためのベーシックデータ第6版 女子栄養大学出版部・松崎政三他編者：調理の基礎とサイエンス 学際企画・給食経営管理学会：給食経営管理用語辞典第3版 第一出版・殿塚婦美子他編者：イラストでみる はじめての大量調理 学建書院・殿塚婦美子他編者：改訂新版 大量調理 −品質管理と調理の実際− 学建書院

《授業時間外学習》
予習として「給食計画論」と「給食実務論」の該当箇所と実習用テキスト冊子を事前に読み、次回の授業内容を事前に確認してから授業に臨むこと。復習として、授業内容の振り返り学習を自発的に行うこと。本授業はグループワーキングが主となる。授業時間外での事前作業・事後作業も積極的に取り組み、期日までに提出物を提出すること。包丁は研いでおくこと。

《課題に対するフィードバック等》
授業において提出を求めたレポートは、次回授業時にコメントを付して返却する。全てのグループ課題(帳票類)は、授業最終回に回収し、定期試験終了日までにフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	実習の目的、栄養・食事計画、献立計画(Plan)	授業の目的、各班および各自の役割分担と大量調理実習の流れを知る。試作献立案を作成する。(グループ協議)【準備学習】配布冊子を事前に読んでおくこと。
2	献立計画、作業計画(Plan)	試作用献立のレシピと作業工程表の立案、食材料購入計画(在庫確認、発注表)を作成する。(グループ協議)【準備学習】配布冊子を事前に読んでおくこと。
3	試作、献立・作業計画、安全・衛生管理 (Plan)	試作班は試作後に献立会議、演習班は試作に向けての準備を行う。(グループワーク)【準備学習】大量調理の特性について配布資料を読んでおくこと。
4	試作、献立・作業計画、安全・衛生管理 (Plan)	試作班は試作後に献立会議、演習班は試作に向けての準備を行う。(グループワーク)【準備学習】大量調理の特性について配布資料を読んでおくこと。
5	食材料・生産・品質・安全・衛生管理 (Plan)	第１回、2回 大量調理に向けての全体打合せと準備を行う。(グループ協議)【準備学習】配布冊子を事前に読んでおくこと。
6	給食の実施(Do)	第1回 大量調理実習(栄養士業務・調理員業務の実践と反省会)5班で役割分担し給食管理業務を行う。(グループワーク)【準備学習】打合せ時の資料を読んでおくこと。
7	給食の実施(Do)	第2回 大量調理実習(栄養士業務・調理員業務の実践と反省会)5班で役割分担し給食管理業務を行う。(グループワーク)【準備学習】打合せ時の資料を読んでおくこと。
8	実施後検証(Check)と食材料・生産管理他(Plan)	第1回、2回 大量調理実習の振り返り、第3回 大量調理に向けての全体打合せと準備を行う。(グループ協議)【準備学習】配布冊子を事前に読んでおくこと。
9	給食の実施(Do)	第3回 大量調理実習(栄養士業務・調理員業務の実践と反省会)5班で役割分担し給食管理業務を行う。(グループワーク)【準備学習】打合せ時の資料を読んでおくこと。
10	実施後検証(Check)と食材料・生産管理他(Plan)	第3回 大量調理実習の振り返り、第4回、5回 大量調理に向けての全体打合せと準備を行う。(グループ協議)【準備学習】配布冊子を事前に読んでおくこと。
11	給食の実施(Do)	第4回 大量調理実習(栄養士業務・調理員業務の実践と反省会)5班で役割分担し給食管理業務を行う。(グループワーク)【準備学習】打合せ時の資料を読んでおくこと。
12	給食の実施(Do)	第5回 大量調理実習(栄養士業務・調理員業務の実践と反省会)5班で役割分担し給食管理業務を行う。(グループワーク)【準備学習】打合せ時の資料を読んでおくこと。
13	実施後の検証(Check)	第4回、5回 大量調理実習の振り返りを行う。(グループ協議)【準備学習】配布冊子を事前に読んでおくこと。
14	実施後の検証(Check)	各班、各種帳票類のチェックと評価を行い、報告会の発表準備をする。(グループ協議)【準備学習】配布冊子を事前に読んでおくこと。
15	実習報告会(Act)	各班の報告から大量調理の流れ、調理作業管理の課題と改善策を考える。(グループ発表)【準備学習】実習内容を振り返り報告ができるようにしておくこと。

《専門科目》

科目名	校外実習				
担当者氏名	長谷川　順子、古俣　智江、福田　馨				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
栄養士が給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食提供とサービスに関する知識、技能、態度、考え方の総合的能力を養い、栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を身に付ける。そして、栄養士として具備すべき調理技術、給食計画立案能力、給食業務に関する処理能力を習得するために、事前研修、事後研修(講義)、学外実習(実習)を通して、理論と実践の統合化を図る。

《授業の到達目標》
・校外実習で必要な礼儀作法、一般常識を正しく身に付ける。
・栄養士の業務を説明できる。
・大量調理施設衛生管理マニュアルを運用できる。
・給食におけるHACCPの運用を説明できる。
・校外実習で身に付けたことを活用できる。
・学内での事前・事後研修(講義)と学外実習(実習)を通して、給食業務のための知識と技能のポイントを説明できる。

《成績評価の方法》
全体で100%とし、「事前学習の理解度10%」「グループワーク、発表の取り組み10%」「学外実習評価20%」「課題20%」「施設実習に向けての取り組み状況40%」で総合的に評価し60点以上を合格とする。(学外実習を行うにあたり、実習前試験に合格することが必須である。詳細は授業内で説明する。)

《テキスト》
・本学独自の実習用テキスト冊子。『校外実習に関する留意事項〈令和8年度版〉』・1年前期　給食計画論、1年後期　給食実務論で使用したテキストと配布プリント。

《参考図書》
・厚生労働省：大量調理施設衛生管理マニュアル 平成29年6月6日生食発第0616第1号
・(公社)日本栄養士会、(社)全国栄養士養成協議会編：臨地実習及び校外実習の実際　(公社)日本栄養士会、(社)全国栄養士養成協議会　2014
・給食経営管理学会：給食経営管理用語辞典第3版　第一出版

《授業時間外学習》
栄養士専門科目、特に「給食の運営(調理学、調理学実習、給食計画論、給食実務論、給食管理実習、応用栄養学)」の復習を行い、栄養士業務に必要な知識、技能を身に付けておくこと。授業時間外にも活動することがあることを十分に留意し、積極的に取り組むこと。グループワークに必要な事項は、グループ内で確認し情報共有すること。

《課題に対するフィードバック等》
授業において提出を求めた個人課題とグループ課題は、校外実習時期や状況に応じて口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。提出物は期限を厳守し提出すること。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	校外実習について 給食の運営の基礎知識	校外実習の意義と目的、心構えと留意点を知る。給食の運営に関わる関連法規を説明できる。【準備学習】各施設の関連法規について復習し、配布冊子を読んでおくこと。
2	給食運営のための衛生管理、施設・食材料・器具	HACCPの概念、大量調理施設衛生管理マニュアル、食材料の取扱い、器具類の管理を説明できる。【準備学習】衛生管理などについて復習しておくこと。
3	病院、高齢者福祉施設の特徴と栄養士業務	病院、高齢者福祉施設の概要と栄養士業務を説明できる。 【準備学習】各施設の特徴などについて事前に復習しておくこと。
4	保育所、学校、事業所の特徴と栄養士業務	保育所、学校、事業所の概要と栄養士業務を説明できる。 【準備学習】各施設の特徴などについて事前に復習しておくこと。
5	実習前試験 実習に向けての一般常識	実習前試験。校外実習までに身に付ける、一般常識(言葉遣い、身だしなみ 他)、調理技術について知る。【準備学習】実習前試験の勉強をしておくこと。
6	実習関係書類及び日誌について	実習関係書類及び実習日誌等の取り扱いを知る。【準備学習】実習関係書類、実習日誌等において指示事項を丁寧に下書きしておくこと。
7	実習関係書類及び日誌の書き方、重要事項	実習関係書類の取り扱いと日誌の書き方、実習における重要項目を知る。 【準備学習】実習関係書類、実習日誌等において指示事項を丁寧に清書しておくこと。
8	事前研修の振り返りと施設別演習	重要項目を知り、施設別演習(個人)、研究課題を設定する。(グループワーク)【準備学習】実習施設の特徴をふまえ、個人・グループで研究課題を考えておくこと。
9	実習における留意点について	実習前講義(保育園園長先生)。校外実習における留意点を知る。 【準備学習】校外実習における心構え、留意点等、重要項目を予習しておくこと。
10	施設別演習	研究課題に取り組む。(グループワーク) 【準備学習】個人・グループで設定して研究課題を進めること。
11	実習施設への提出物の作成	実習施設への提出物作成における留意点を知る。 【準備学習】実習施設に提出する書類等を確認し作成すること。
12	実習に向けて	実習前講話及びケーススタディ(学長先生)。(グループ討議、発表) 【準備学習】校外実習における留意点を復習しておくこと。
13	事後研修について 施設別演習	事後研修の進め方を知り、取り組んだ研究課題の振り返りを行う。(グループワーク)【準備学習】校外実習前準備をしておくこと。
14	校外実習	実習施設において10日間の実習を行う。(グループワーク)【準備学習】各実習施設における実習では、意欲的、積極的に実習に取り組めるように準備すること。
15	事後研修、実習報告会および報告書の作成と発表	実習報告会に向けて校外実習のまとめ、実習報告書の作成およびPPTで発表をする。(グループ発表)【準備学習】実習日誌のまとめと報告書の作成を行うこと。

《専門科目》

科目名	教育方法				
担当者氏名	安食　邦明				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
学校での「食育」指導体制推進の要として、栄養教諭に求められる食に関する指導と学校給食の管理について一体的に学ぶ。特に食に関する指導の在り方については主体的・対話的で深い学びになるよう、ｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞの手法を生かして実践的に学ぶ。また、ICT機器や教材の活用に関する知識と技能を修得する。

《授業の到達目標》
１．栄養教諭の制度や役割、資質・能力等について説明できる。２．食育に関する指導方法を学び、指導案が作成できる。３．食育における個別に配慮すべき点を説明できる。４．食育における教材作成や環境整備、給食だよりの作成等ができる。５．食育における家庭や地域との連携の在り方について説明できる。６．ICT機器等を活用した教材が作成できる。７．自分の考えが発表できる。

《成績評価の方法》
授業内レポートと課題提出40％、討議や発表30%、最終課題30％で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
講義時に資料を配付します。

《参考図書》
・金田雅代・著　四訂「栄養教諭論-理論と実際-」（健帛社）
・藤澤良知他・著　第二版「よくわかる栄養教諭-－食育の基礎知識－」（同文書院）
・文部科学省「食に関する指導の手引ー第二次改訂版ー」

《授業時間外学習》
食育に係る学習指導案や給食だより、教材等の作成や最終課題レポートの作成に主体的に取り組み、発表できるように準備を進めておく。また、授業では、テーマについて自らの考えが発表できるように準備をしておく。2単位15時間の科目では60時間の時間外学習が必要とされている。

《課題に対するフィードバック等》
提出された課題や発表内容等について内容を確認し、授業時に適宜講評するとともに、次回の授業の中でコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	栄養教諭の制度と役割、教育方法の基礎的理解	食育に関係する法令や栄養教諭の制度、教育方法についての基礎的理解 ［時間外学習］食育基本法や栄養教諭の制度について調べておく。
2	学校給食の教育的意義と栄養教諭の位置づけ	学校給食法の理解と学校給食の意義や課題 ［時間外学習］学校給食の意義や課題について調べておく。
3	教科指導等における栄養教諭の行う食育の方法	教科指導等における食育の全体計画と年間指導計画 ［時間外学習］学校の食育に関する全体計画や年間指導計画について調べておく。
4	主体的･対話的で深い学びにする食育の授業	教科や学級活動におけるｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞの手法を生かした食育の学習指導 ［時間外学習］栄養教諭の行う食育の学習指導案を作成し、発表の準備をしておく。
5	有効な食育教材を活用した授業	食育の授業で活用できる有効な教材の在り方（作品の発表・協議） ［時間外学習］授業で活用できる食育教材を作成し、発表の準備をしておく。
6	効果的な給食だよりの作成	食育だよりの意義と作成（作品の発表・協議） ［時間外学習］テーマに合わせた食育だよりを作成し、発表の準備をしておく。
7	情報活用能力の育成を図る食育	情報活用能力の育成を意図した「食のポスター」の作成と発表 ［時間外学習］テーマに合わせた食のポスターを作成し、発表の準備をしておく。
8	学級活動及び総合的な学習の時間における食育	学級活動や総合的な学習の時間において児童生徒が主体的に学ぶ食に関する指導 ［時間外学習］学級活動や総合的な学習の時間のねらいについて調べておく。
9	給食の時間における食に関する指導の在り方	給食の時間における担任を核とした指導の在り方と栄養教諭の関わり ［時間外学習］給食の時間における担任や栄養教諭の果たす役割について調べておく。
10	指導と評価の一体化に配慮した食育の指導	学習指導等における評価の在り方 ［時間外学習］授業における評価方法について調べておく。
11	発達段階や個別の特性等に応じた食に関する指導	食における発達段階や個別の特性、ニーズに応じた指導の在り方 ［時間外学習］栄養教諭の行う、個別の特性やニーズ等に応じた指導を調べておく。
12	現職栄養教諭の指導実践例から学ぶ	現職の栄養教諭が行っている指導事例（質問事項を考え発表） ［時間外学習］実際の栄養教諭が行っている指導事例を調べておく。
13	家庭･地域と連携した食育の在り方	家庭や地域との連携した食に関する指導の在り方（具体的な取組を考え、発表） ［時間外学習］栄養教諭が核となった家庭や地域と連携した食育について考えておく。
14	環境整備と教材開発	栄養教諭が行う環境整備や食育教材の作成と発表 ［時間外学習］栄養教諭として食育コーナーをどのように構成するか考えておく。
15	これからの栄養教諭に求められる資質・能力	今日的教育課題とこれからの栄養教諭の在り方（討議・発表） ［時間外学習］これからの栄養教諭に求められる資質・能力について考えておく。

《専門科目》

科目名	生徒指導・教育相談				
担当者氏名	小笠原　忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
学校現場で遭遇する生徒指導・教育相談上の種々の問題に対処するために、カウンセリングの基礎的知識を含む基本的・実践的な考え方や態度・技法を身につける。具体的な事例について教育臨床的な視点から問題を理解し、対応のあり方について具体的に論じる。

《授業の到達目標》
①学校現場で起こる様々な生徒指導・教育相談に関わる諸問題について、背景としての社会的課題を踏まえながら説明できる。②児童生徒に発生しやすい心理的な問題について理解し説明できる。③学校現場で起こる生徒指導・教育相談上の諸問題について、教師として学校での生徒や保護者への対応や支援の在り方、教職員・スクールカウンセラー等との連携のあり方、外部専門機関との連携のあり方を説明できる。

《成績評価の方法》
毎時間提出するリアクションペーパー(20%)＋定期試験(80%)で評価をおこない、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
必要に応じてプリントを使用する。

《参考図書》
黒田祐二・清水貴裕・飯田順子(編著) (2024) 実践につながる教育相談＜改訂版＞　北樹出版

《授業時間外学習》
予習として、次回授業内容に該当するテーマを精読し、自らの興味関心および疑問点などを挙げる「予習ノート」を作成し、授業に臨むこと(2時間)。また、復習として「予習ノート」と「授業ノート」を照らし合わせて復習し、ノートの整理をすること(2時間)。本授業では予習・復習を合わせて合計60時間の授業時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》
授業の終わりに提出するリアクションペーパーの記載内容に対しては次回授業の冒頭でフィードバックし、質問内容などを全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	生徒指導・教育相談の意義と課題	生徒指導と教育相談の今日的な意義および課題を整理する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
2	子どもの発達の特徴と思春期の理解	発達および学習の諸理論を学び、特に思春期の理解の促進を図る。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
3	ストレスとメンタルヘルスに関する理解	ストレスやメンタルヘルスについて学び、その対応方法を考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
4	発達障害の理解と関わり（グループワーク）	発達障害を理解し、関わり方を考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
5	不登校の子どもの理解と関わり(グループワーク)	不登校の現状を理解し、捉え方や関わり方を考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
6	いじめへの対応(グループワーク)	いじめの現状と今日的課題を理解し、対応のあり方を考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
7	暴力行為と非行問題の理解（グループワーク）	暴力行為や非行問題の現状を理解し、対応のあり方を考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
8	虐待の原因と子どもへの影響(グループワーク)	虐待が起こる背景を学び、子どもへの影響と対応等を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
9	カウンセリングの基本的理論（グループワーク）	カウンセリングに関わる基本的な理論を学び、援助者としての姿勢・態度を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
10	カウンセリングの基本的技法　傾聴(グループ)	グループワークを通じて援助者としての基本的なスキルを身につける。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
11	カウンセリングの基本的技法　共感(グループ)	グループワークを通じて援助者としての基本的なスキルを身につける。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
12	アセスメントの方法①(グループワーク)	不適応や問題行動の見立てと情報共有および守秘義務について理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
13	アセスメントの方法②(グループワーク)	不適応や問題行動の見立てとその対応方法について理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(3時間)。
14	予防的教育相談(グループワーク)	すべての児童生徒を対象とした予防的教育相談の理論と方法を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
15	校内連携および外部機関との連携	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部専門機関との連携と保護者支援のあり方を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習(2時間)復習(2時間)。

《専門科目》

科目名	栄養教育実習				
担当者氏名	鈴木　玉枝				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
栄養教諭として、学校における給食の時間や食に関わる学校行事への参観、補助、また、食に関する指導計画への参画などの実践に触れる機会を通して、栄養教諭に期待される多様な業務や役割について理解を深める。加えて、本学での実習の事前事後指導と併せ、大学と実習校における理論と実践の融合を図りながら、栄養教諭としてより資質の高い能力を身につける。

《授業の到達目標》
栄養教諭教育実習の目標を設定できる。
指導案の作成ができる。
模擬授業が計画通りに実施できる。
教員との良好なコミュニケーションが取れる。
実習内容が適正に記録できる。
実習を振り返り、報告書にまとめることができる。

《成績評価の方法》
実習(60%)、報告書等(30%)、発表(10%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
芦川修貮監修「栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート」学建書院
文部科学省「食に関する指導の手引き」2019

《参考図書》
授業内で紹介します。

《授業時間外学習》
特に事前準備を入念に行うことが重要となることから、児童・生徒の実態や学校給食について十分な情報を収集し、整理しておくこと。栄養の専門家であることを意識し、恥ずかしくないような知識を習得するよう努めること。

《課題に対するフィードバック等》
作成指導案、報告書等は添削後、授業内等でフィードバックします。より良い内容に修正すること。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	事前指導 栄養教育実習の基礎事項	教育実習の法的根拠 〔準備学習〕テキストの該当箇所を学んでおく
2	栄養教育実習の意義	栄養教育実習の意義、理想の教師像 〔準備学習〕テキストの該当箇所を学んでおく
3	栄養教育実習の準備と心得：目標設定	栄養教育実習の意義の明確化、目標設定 〔準備学習〕実習校について教育方針等を調査しておく
4	栄養教育実習の準備と心得：ビジネスマナー	一般的な注意事項、教育実習の形態と関わり方 〔準備学習〕テキストの該当箇所を学んでおく
5	指導案の作成	対象を設定して、具体的指導内容を作成する。 〔準備学習〕1年次に学んだ指導案の書き方を復習しておくこと
6	模擬授業(前半グループ)	作成した指導案に基づき、模擬授業を行う。 〔準備学習〕指導内容に沿って媒体等作成しておく
7	模擬授業(後ろ半グループ)	作成した指導案に基づき、模擬授業を行う。 〔準備学習〕指導内容に沿って媒体等作成しておく
8	栄養教育実習の準備と心得：実習記録	教育実習日誌の書き方 〔準備学習〕テキストの該当箇所を学んでおく
9	教育実習	小・中学校において1週間の実習 〔準備学習〕実習日誌の当該ページを記録する
10	教育実習	小・中学校において1週間の実習 〔準備学習〕実習日誌の当該ページを記録する
11	教育実習	小・中学校において1週間の実習 〔準備学習〕実習日誌の当該ページを記録する
12	事後指導 実習記録の整理	提出物（実習ノートや指導案等）の整理 〔準備学習〕実習日誌の当該ページを記録する
13	自己評価	自己評価をふまえた問題点の整理 〔準備学習〕実習日誌の当該ページを記録する
14	報告書作成	今後の課題の明確化と報告書の作成 〔準備学習〕書式に従って報告書を作成する
15	教育実習内容の発表	教育実習内容について発表する。 〔準備学習〕実習報告書をまとめ、発表できるようにする。

《専門科目》

科目名	フードコーディネート論				
担当者氏名	清田　有里子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ◎　2-2 知識・技能				

《授業の概要》
フードコーディネートは、食べることに関わるさまざまな場において、食物自体のおいしさ、雰囲気、感情など多岐にわたる条件を調整して、満足のいく場面を演出することである。
本授業では、食物のおいしさについての知識を持ち、喫食者が食に対して何を求めているかの要望を察知してコーディネートする基礎的な知識を修得する。

《授業の到達目標》
メニュープランニング、食卓・食空間を含めた「食」のコーディネートを適用できる。
フードコーディネートに関係する基礎的知識を説明できる。

《成績評価の方法》
定期試験70%、課題30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
日本フードスペシャリスト協会編「三訂フードコーディネート論 第13版」建帛社　2022

《参考図書》
「2026年度版 フードスペシャリスト資格認定試験 過去問題集」建帛社 2026

《授業時間外学習》
各回テーマについて、テキストを精読し自己学習しておく。授業後は、テキスト、ノート、過去問等を用いて復習する。
課題は個人で作成及び発表する（本授業では60時間の時間外学修が必要です）。

《課題に対するフィードバック等》
授業における発表にて個別に口頭にてフィードバックを行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	フードコーディネートの基本理念	おいしさの本質、おいしさとフードコーディネート 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
2	日本及び外国の食事の文化	食事とは、食のタブーと宗教、特別な日の食事、外国の食事 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
3	日本の食事の文化	日本の食事の歴史 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
4	食卓のコーディネート（日本の料理）	テーブルコーディネートの要点、各料理の食卓のコーディネート 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
5	食卓のコーディネート（世界の料理）	テーブルコーディネートの要点、各料理の食卓のコーディネート 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
6	食卓のサービスとマナー	サービスとマナーの基本、パーティー、プロトコル 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
7	各料理における食卓のサービスとマナー	各料理のサービスとマナー 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
8	メニュープランニング	メニュープランニングの要件、料理様式とメニュー開発の基礎 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
9	メニュープランニング 食空間のコーディネート	メニュープランニングの振り返り、食空間のコーディネートの基礎 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
10	食空間のコーディネート	食事空間のコーディネートの基礎 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
11	フードマネジメントサービス（ビジネス）	フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本、フードサービスの起業 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
12	フードマネジメントサービス（計画）	投資計画、収支計画の作成、損益分岐点売上高について 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
13	フードサービスマネジメント（振り返り）	フードサービスマネジメントの振り返り 〔時間外学習〕該当テーマにつきテキストを精読（2時間）、復習（2時間）する
14	食企画の実践コーディネート、試験対策	食企画の流れ、食企画に必要な基礎スキル、試験対策（発表） 〔時間外学習〕過去問を用い試験対策（1.5時間）、課題作成（2.5時間）する
15	フードコーディネートの振り返り、試験対策	フードコーディネートに関する重要項目の振り返り、試験対策（発表） 〔時間外学習〕過去問を用い試験対策（1.5時間）、テキストで復習（2.5時間）する

《専門科目》

科目名	調理実務演習				
担当者氏名	田中　祐作、長谷川　順子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
人々の食生活の向上や、健康増進、食の安全・安心に貢献し食を提供できる栄養士となり、社会で活躍できる人材になるために必要な能力を取得する。
実技の習得状況は、グループで確認しながら進めていく。

《授業の到達目標》
①安全に食を提供するための知識を調理作業に応用することができる。
②技能の習熟度を高め、調理に適した器材を使用して、工程を説明できる。
③各料理の作業手順や衛生管理を説明することができる。
④大量調理時の衛生管理と調理作業の流れを説明できる。

《成績評価の方法》
全体で100%とし、実技試験70%・提出物20%・観察記録10%により総合的に評価し、
60点以上を合格とする。

《テキスト》
松月弘恵他編者：トレーニーガイドPDCAによる給食マネジメント実習第　２版　医歯薬出版株式会社2024その他必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》
調理学実習
調理師養成教育全集　必集編第5巻調理学実習
加藤由美子他緒者：給食経営管理テキスト
第6版学建書院2025

《授業時間外学習》
・学習内容に指示された「準備学習」に取り組んでおくこと。
・毎回授業後には、学修内容をノートにまとめるとともに復習をしておく。
本授業は３０時間以上の時間外が必要です。

《課題に対するフィードバック等》
必要に応じて技術の習熟度を確認し、不十分な部分をその都度口頭でフィードバックするので、到達目標に達するよう理解を深め知識及び技術修得に結び付ける。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	調理技能演習１の概要 田中祐)	調理技能演習の意義と目的について 「準備学習」調理学実習を読んでおくこと。（4時間）
2	包丁研ぎ　田中 ペティナイフ・牛刀	正しい姿勢・刃の角度を確認する 「準備学習」調理学実習を読んでおくこと。（3時間）
3	調理の基本①　田中 （薬物野菜の切り）	ペティナイフを用いた野菜の切り方① 「準備学習」ペティナイフを研いでおくこと。（3時間）
4	調理の基本②　田中 （根菜野菜の切り）	牛刀を用いた野菜の切り方 「準備学習」牛刀を研いでおくこと。（3時間）
5	調理の基本応用 （煮込み）田中	切った食材で料理を作る。牛刀と調理器具の正しい使い方 「準備学習」調理学実習を読んでおくこと。（3時間）
6	調理の基本③　田中 （キャベツの千切り）	牛刀を用いて野菜の切り方① 「準備学習」牛刀を研いでおくこと。（3時間）
7	調理の基本④　田中 （野菜の乱切り）	牛刀を用いて野菜の切り方② 「準備学習」牛刀を研いでおくこと。（3時間）
8	調理の基本応用　田中 （マリネ）	切った食材で料理を作る。牛刀と調理器具の正しい使い方 「準備学習」調理学実習を読んでおくこと。（3時間）
9	調理の基本応用　田中 （炒める）	ペティナイフ・牛刀の特性を生かして食材の切り方考える。 「準備学習」調理学実習を読んでおくこと。（3時間）
10	献立作成　長谷川	大量調理用の献立を作成する。（グループワーク） 【準備学習】1年次に学習した献立作成の留意事項の復習する。（2時間）
11	大量調理の基本 長谷川	大量調理施設で行われている食材の処理方法、機械の使用方法、食器選択の考え方を知る。【時間外学習】授業内容の復習。（4時間）
12	献立に基づいた作業工程と動線の作成　長谷川	立案した献立に基づいて、作業工程、作業動線（ヒト、食材）の検討と衛生管理のチェックポイントを考える。【時間外学習】授業内容の復習。（4時間）
13	作成した作業工程と銅線の改善策の提案・長谷川	考えた作業工程、作業動線を調理現場でチェック後、より良い改善策を考える。 【時間外学習】授業内容の復習（3時間）
14	調理の基本技術③　田中 （切った食材の処理法）	大量調理で作業工程・衛生管理・作業手順の確認③ 「準備学習」調理学実習を読んでおくこと。（3時間）
15	基本技術の確認 田中	理解度の確認。今後の展開と自己課題の明確化 「準備学習」調理ノートをまとめておくこと。（3時間）

《専門科目》

科目名	社会福祉概論				
担当者氏名	東　敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
飽食や孤食、貧困家庭への支援など、現代社会の抱える社会問題の中で、食に関わる取組は非常に重要な課題である。本授業では、栄養士・管理栄養士業務として社会福祉分野で求められる基本的な知識の理解を深め、人間理解に基づく支援を行っていく上で必要となる、当事者の自己決定の尊重、自立支援、介護予防や早期治療等の実際について学ぶ。加えて、事例をあげながらグループディスカッションを通して学びを深める。

《授業の到達目標》
①社会福祉の概念・意義について理解し説明できる。
②我が国の社会福祉の成り立ちについて理解し説明できる。
③我が国の社会福祉制度の概要について理解し説明できる。
④対人援助職としての栄養士がもつ社会福祉分野での役割について理解し説明できる。

《成績評価の方法》
授業の到達目標に基づき，課題等提出物20%，授業内の取り組み・発言等20%、授業内試験60%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
●岩松珠美・三谷嘉明編「栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉～人の生活を支える食と社会福祉を学ぶ～ 7訂」みらい2022

《参考図書》
日本ソーシャルワーク教育学校連盟 『社会福祉の原理と政策（最新社会福祉士養成講座）』 中央法規出版 2021年 第１版

《授業時間外学習》
教科書のページに添って、毎回の予習・復習をすすめてください。（授業時間外学習は30時間です）
福祉にかかわるニュースや住んでいる地域の社会福祉施設などの情報に意識的に興味を向け、自身の学びや考察に生かせるようにしましょう。

《課題に対するフィードバック等》
提出課題や授業での発言等へ、その都度コメントを付すことでフィードバックしていきます。提出された課題を全体に紹介して意見交換することで学びを深めることもあります。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	社会福祉を学ぶ意義	栄養士・管理栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的について考える。 予習：教科書p13～27　復習：授業配布プリント
2	社会福祉の意味と対象	社会福祉とその対象について学び、栄養士・管理栄養士としての関わるか考える。 予習：教科書p28～42　復習：授業配布プリント
3	社会保障と公的扶助	社会保障の体系と社会保険の仕組み・制度、最低限度の生活保障について学ぶ。 予習：教科書p43～76　復習：授業配布プリント
4	高齢者福祉と障害者福祉	高齢者の生活と介護、障害者福祉の理念と法律・施策について学ぶ。 予習：教科書p77～98，122～142　復習：授業配布プリント
5	児童家庭福祉	子どもと子育て家庭の生活、障害児とその家族の生活について学ぶ。 予習：教科書p99～121　復習：授業配布プリント
6	地域福祉と権利擁護	地域福祉の理念と方法と地域福祉の主体、利用者本位の社会福祉の仕組みを学ぶ。 予習：教科書p143～172　復習：授業配布プリント
7	社会福祉における援助の方法	人間に関わる専門職として心得るべき社会福祉援助技術の考え方について学ぶ。 予習：教科書p173～184　復習：授業配布プリント
8	社会福祉実践の場と専門職	社会福祉の実施機関・種別、社会福祉の専門職と連携について学ぶ。 予習：教科書p185～227　復習：授業配布プリント
9	−	−
10	−	−
11	−	−
12	−	−
13	−	−
14	−	−
15	−	−

《専門科目》

科目名	解剖生理学実習				
担当者氏名	田中　政巳				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
解剖生理学の講義において学習した人体の構造と機能について、さらに実習を通して確認することによって理解を深める。実習では、組織観察、酵素反応の測定、血圧など人体の生理現象の測定、感覚に関する実験等を行う。また、実験を行なう上で必要な技術、実験機器・器具等の扱い方についての基礎を身につける。実習は、実験の進行や実験結果の考察を、グループで討論しながら進めていく。

《授業の到達目標》
人体を構成する要素や機能を説明できることにより、人々の健康維持・増進に関わる知識・技能の基礎をより深く習得して、栄養士としての仕事に役立てられるようにする。
実験結果について討議できる。
実習内容をレポートにまとめることができる。

《成績評価の方法》
実習レポート(70%) および授業内課題、授業態度等(30%) によって行う。授業態度は、実習への取り組み状況を特に評価する。
これらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
実習のためのプリントを配布する。

《参考図書》
栄養科学イラストレイテッド　解剖生理学　人体の構造と機能　第3版　志村二三夫ら編　羊土社　2022
人体の正常構造と機能　第3版　坂井建夫、河原克雅　編　日本医事新報社 2017

《授業時間外学習》
各回の実習後は結果をまとめ、深く考察をして、実習レポートを作成する。
解剖生理学の講義において学習した人体の構造と機能について、実習を通してさらに理解を深める。

《課題に対するフィードバック等》
実習に積極的に臨むこと。授業内課題は問題の解説等次回の授業でフィードバックすることを原則としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	解剖生理学実習の基礎	解剖生理学実習の概要、実験の心得、実験器具の取り扱い、試薬の取り扱い、危険物・廃棄物の取扱い、レポート作成について（事後学習：本日の内容の復習）
2	細胞の観察	光学顕微鏡の扱い方、口腔粘膜細胞の観察、組織標本の観察（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
3	組織の観察	組織標本の観察（事後学習：実験レポートの作成）
4	臓器の観察 煮干しの解剖	動物(魚) の解剖・臓器の観察、煮干しを用いる。（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
5	臓器の観察 イワシの解剖	動物の解剖(魚) ・臓器の観察、イワシを用い、（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
6	臓器の観察 心臓	心臓の構造観察（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
7	消化酵素に関する実験	唾液アミラーゼ活性の測定、唾液アミラーゼ活性の個人差（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
8	血液に関する実験 血液細胞	血液細胞の観察（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
9	血液に関する実験 凝固線溶現象	血液凝固現象の観察、血液線溶現象の観察（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
10	運動器に関する実験	骨組織と筋組織（骨格筋、平滑筋）の切片作成、染色および微細構造の観察（グループワーク）（事前学習：教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
11	泌尿器に関する実験	腎臓の構造観察、浸透圧に関する実験（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
12	循環に関する実験 血圧	発汗現象の観察、汗腺密度分布（グループワーク）（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
13	感覚に関する実験 視覚、聴覚，深部感覚	視覚、聴覚および深部感覚に関する実験（グループワーク）、（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
14	感覚に関する実験 皮膚感覚	皮膚感覚（触 - 圧覚、痛覚、2点識別閾）に関する実験（グループワーク）、（事前学習：実験に関連する項目を教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）
15	感覚に関する実験 味覚	味覚に関する実験（味覚情報の弁別、弁別閾地の測定、味覚の分布の測定）（グループワーク）（事前学習：教科書で予習しておく、事後学習：実験レポートの作成）

《専門科目》

科目名	食品衛生学実習				
担当者氏名	甲山　恵美				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能				

《授業の概要》
食品衛生に関する試験・検査方法を習得し，食品分析に関する実験を通して，食品の安全性について理解を深める。
なお，実験内容は変更する場合があります。実験は,グループで行います。

《授業の到達目標》
１）食品衛生検査の目的と意義について説明できる。
２）微生物検査の基本操作を実践できる。
３）食品の衛生管理基準を説明できる。

《成績評価の方法》
レポート（80%），発表・授業態度等（20%）から総合的に評価し，60点以上を合格とする。

《テキスト》
授業時に使用するプリントを毎回配布する。

《参考図書》
後藤政幸，熊谷優子編著，『三訂　食品衛生学実験　第2版』，建帛社，ISBN978-4-7679-0738-3
その他適宜紹介する。

《授業時間外学習》
・事前学習：プリント等配布された資料を事前に目を通しておくこと。【0.5時間】
・事後学習：授業内容を振り返り，レポートの作成を行う。【1.5時間】
毎回の授業ごとに2時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》
実験はグループで行い，レポートは個人で作成する。提出されたレポートは，コメントを入れて，翌週以降の授業内で返却する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	基本的注意事項，DVD(食品衛生の基礎)	レポートの書き方，一般的な衛生管理【時間外学習】シラバスを確認する。授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
2	食品洗浄の検査	デンプン性残留物の検査，タンパク性残留物の検査，中性洗剤の簡易検出【時間外学習】授業内容を整理しレポートの作成を行う。
3	牛乳の鮮度試験および規格	生乳・牛乳類の酸度測定，アルコール試験【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
4	鶏卵の鮮度試験/飲料水の水質検査	鶏卵の鮮度判定,遊離残留塩素,硬度,その他の水質項目【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
5	微生物実験の基本操作/手洗い/空中落下菌	手洗いチェック,微生物実験の基本操作，空中落下菌の測定【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
6	手指・顔の常在菌測定/身の回りの細菌測定	常在菌の測定,ふき取り検査【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
7	食品中の生菌数測定	希釈培養法【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
8	グラム染色	グラム染色,顕微鏡観察【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
9	食中毒予防の三原則の確認	つけない,ふやさない,やっつけるの確認実験【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
10	食品添加物 ①発色剤の検査	ハムやソーセージ中の亜硝酸塩の測定【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
11	食品添加物 ②着色料の検査	合成着色料の定性,ペーパークロマトグラフィ【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
12	食品添加物 ③漂白剤の検査	亜硫酸塩の定性【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
13	寄生虫の確認	アニサキスなどの寄生虫の確認【時間外学習】授業内容を整理し，レポートの作成を行う。
14	発表準備	授業内容をまとめ発表を行う。【時間外学習】実習で学んだ内容を振り返り，理解を深める。
15	発表	実習内容をまとめ、発表を行う。【時間外学習】発表資料の作成を行う。

《専門科目》

科目名	臨床栄養学実習Ⅱ				
担当者氏名	鈴木　玉枝				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	〇　2-2 知識・技能 〇　3-3 汎用的技能 〇　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
個々の病態に即した栄養補給を行うことを目的とし、傷病者の栄養状態を正確に把握し、計画・立案できる能力・技術を身につける。また、医療スタッフの一員としての能力が発揮できる栄養士となるために、患者の生活の質（QOL）向上を視野に入れた治療食の提供が出来る能力・技術を身につける。臨床栄養学実習Ⅰを修めている事を条件とする。

《授業の到達目標》
傷病者の栄養状態を正確に把握し、計画・立案できる。
患者の生活の質（QOL）向上を視野に入れた治療食の提供が出来る。

《成績評価の方法》
ノートならびに各回の献立等提出物(70%)、小テスト・授業・実習態度(30%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
玉川和子ほか「臨床調理」医歯薬出版

《参考図書》
長浜　幸子ほか「実践臨床栄養学実習」第一出版　2020
黒川清監修「腎臓病食品交換表」　医歯薬出版　最新刊　ほか

《授業時間外学習》
電卓、食品成分表、臨床栄養学実習Ⅰで用いた実習書は必携。
他に配布する資料はファイルしておくことが望ましい。
積極的に学ぶ姿勢が要求される。

《課題に対するフィードバック等》
課題は、授業等で説明等をしながらフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	アセスメントの実際 臨床検査の意味	身体計測、アセスメントの実際、栄養補給の実際・経口摂取と献立について学ぶ。〔準備学習〕１年次、2年次前期の復習をして臨むこと。
2	塩分制限食の献立作成	献立作成（ポイント：塩分制限食）を実施する。 〔準備学習〕献立課題を仕上げて提出する。
3	塩分制限食の調理実習	塩分制限食を美味しくする手法を学ぶ。 〔準備学習〕調味パーセントの計算を事前に行って臨むこと。
4	献立作成（Ca，Feｺﾝﾄﾛｰﾙ食）	献立作成（ポイント：Ca，Feｺﾝﾄﾛｰﾙ食）を実施する。(グループディスカッション)〔準備学習〕第7回の実習をまとめて臨むこと。
5	Ca，Feｺﾝﾄﾛｰﾙ食の調理実習	Ca，Feｺﾝﾄﾛｰﾙ食の実際を学ぶ。 〔準備学習〕テキストのCa，Feｺﾝﾄﾛｰﾙ食の項を事前に読んで臨むこと。
6	アレルギー食の献立作成	小児アレルギー食の献立を作成する。(グループディスカッション) 〔準備学習〕前期に学習したアレルギーについて復習して臨むこと。
7	アレルギー食の調理実習	アレルギー食対応の除去食を調理実習する。 〔準備学習〕実習記録を作成すること。
8	がん患者の栄養管理	がん患者の栄養管理、がん患者の食事の実際を学ぶ。 〔準備学習〕「臨床栄養学各論」で学んだ外科栄養の項を復習しておくこと。
9	災害時の栄養管理と調理実習	災害時における栄養士の業務、役割について学び、パッククッキング調理実習を行う。 〔準備学習〕災害時における傷病者に対する栄養管理について調べておく。
10	栄養ケアプランの作成、 栄養管理計画書の作成	モデル症例の栄養管理を学ぶ。(グループディスカッション)〔準備学習〕臨床検査値を復習し、栄養ケアプランを立案し、症例課題を仕上げて提出する。
11	自主献立作成	モデル症例に対して、具体的な1日の献立を作成する。(グループディスカッション)〔準備学習〕前期に学習した疾患別食事療法の復習をしておくこと。
12	自主献立の調理実習	作成した献立を調理し評価する。献立集作成にむけて、栄養価計算し、作り方などの整理をする。〔準備学習〕自作献立の調理手順や注意事項について把握しておくこと。
13	模擬栄養指導と症例発表に向けた取組み　GW	モデル症例を症例検討し、模擬栄養指導、プレゼンテーションのための資料を作成する。(グループディスカッション)〔準備学習〕検査データの復習をしておくこと。
14	模擬栄養指導と症例発表に向けた取組み　作成	個別栄養指導を想定して、プレゼンテーション資料を作成する。(グループディスカッション)〔準備学習〕病態、治療法、食事療法について復習しておく。
15	症例発表、模擬栄養指導、評価	資料をもとにプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。(発表と相互評価)〔準備学習〕事前に各班の献立、資料を評価して臨むこと。

《専門科目》

科目名	栄養指導実習Ⅱ				
担当者氏名	冨重　慶子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能				

《授業の概要》
栄養指導を実施するために必要な技法について学修した知識をもとに、模擬個人・集団栄養指導を行うことにより、指導方法を身につける。また、栄養指導計画作成に必要な情報を理解し、対象者にわかりやすく伝えることができるようにする。

《授業の到達目標》
個別および集団の栄養指導ができるよう、実態把握・計画作成ができる。グループワークを通して協調性を身に付け、栄養指導実施・相互に評価を行うことができる。

《成績評価の方法》
レポート・課題(70%)、発表(30%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
片井加奈子他編「栄養教育論実習　第3版(栄養科学シリーズNEXT)」講談社サイエンティフィク

《参考図書》
日本糖尿病学会編「糖尿病のための食品交換表」文光堂

《授業時間外学習》
栄養指導に必要な情報収集を行う。また、発表に向けて十分な練習を行う。

《課題に対するフィードバック等》
課題レポートが期限内に提出できたか、また内容がふさわしいか確認し、不十分な場合は再提出に向けて指導を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	栄養指導の実際（栄養メモの指導案作成）	栄養指導に必要なカウンセリング基礎力、栄養メモ指導案作成 準備学習：2年次前期の復習をしておくこと。
2	栄養指導の実際（栄養メモ作成）	栄養メモの作成 準備学習：栄養メモの作成方法につて予習しておくこと。
3	栄養指導の実際（栄養メモ発表）	栄養メモの指導案、媒体発表（相互評価） 準備学習：発表するための事前準備、練習を行っておくこと。
4	個人栄養指導準備（アセスメント）	個人栄養指導に必要な媒体作成検討 準備学習：症例検討の方法について予習しておくこと。
5	個人栄養指導準備（指導計画作成、媒体作成）	症例検討、栄養指導計画作成、個人栄養指導に必要な媒体作成 準備学習：個人栄養指導用指導計画案・指導媒体の作成について予習しておくこと。
6	個人栄養指導準備（媒体作成、実施方法）	個人栄養指導に必要な媒体作成、個人栄養指導の実施方法について 準備学習：個人栄養指導の実施方法と報告書の作成方法について予習しておくこと。
7	個人栄養指導（媒体の発表）	個人栄養指導媒体発表（相互評価）、報告書の作成方法 準備学習：模擬個人栄養指導を実施するための事前練習を行っておくこと。
8	個人栄養指導（模擬指導）患者背景設定	模擬個人栄養指導（１）（グループワーク）、患者背景設定、報告書の作成 準備学習：模擬個人栄養指導を実施するための事前練習を行っておくこと。
9	個人栄養指導（模擬指導）報告書作成	模擬個人栄養指導（２）（グループワーク）、報告書の作成、指導評価 準備学習：模擬個人栄養指導を実施するための事前練習を行っておくこと。
10	集団栄養指導準備（計画立案）	集団栄養指導の計画立案、情報収集（グループワーク） 準備学習：集団栄養指導の計画立案について予習、資料を収集しておくこと。
11	集団栄養指導準備（媒体作成）	集団栄養指導の媒体作成（グループワーク） 準備学習：集団栄養指導用媒体の作成方法について予習しておくこと。
12	集団栄養指導準備（媒体作成、発表準備）	集団栄養指導の媒体作成、模擬集団栄養食事指導の発表準備（グループワーク） 準備学習：模擬集団栄養指導を行うにために必要な資料を収集しておくこと。
13	集団栄養指導（模擬集団指導１）、評価	模擬集団栄養指導（グループごと）(1)（グループワーク、相互評価） 準備学習：模擬集団栄養指導を実施するための事前練習を行っておくこと。
14	集団栄養指導（模擬集団指導２）、評価	模擬集団栄養指導（グループごと）(2)（グループワーク、相互評価） 準備学習：模擬集団栄養指導を実施するための事前練習を行っておくこと。
15	集団栄養指導（模擬集団指導３）、評価	模擬集団栄養指導（グループごと）(3)(グループワーク、相互評価） 準備学習：模擬集団栄養指導を実施するための事前練習を行っておくこと。

《専門科目》

科目名	公衆栄養学概論				
担当者氏名	冨重　慶子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能				

《授業の概要》
公衆栄養学の概念、栄養政策・制度、公衆栄養活動の理論的根拠および実践活動についての基本的な知識を学ぶ。また、現在の食生活における問題点について、意見交換し討議する。

《授業の到達目標》
①公衆栄養の概念、栄養政策・制度、公衆栄養活動の基本について説明できる。
②人々のQOLの向上、健康の維持・増進のために適切な食生活の指導について説明できる。

《成績評価の方法》
定期試験(70%)、課題・小テスト(30%)を総合評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
芦川修二　監修　「公衆栄養学<2026/2027>(エスカベーシック)」同文書院

《参考図書》
藤沢良知・原　正俊　編　「新　公衆栄養学」第一出版
山本　茂ほか編　「栄養科学シリーズNEXT　公衆栄養学」講談社

《授業時間外学習》
該当授業内容学習部を事前に読んでおく。
(本授業では60時間の時間外学習が必要です)

《課題に対するフィードバック等》
講義において適宜小テストを実施し、次回講義冒頭で解答の確認、解説を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	第1章　公衆栄養の概念（公衆栄養とは）	公衆栄養の概念 [準備学習]テキストの第1章p１－3を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)
2	公衆栄養の概念（歴史）	公衆栄養活動の歴史 [準備学習]テキストの第1章p4－21を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)
3	第2章　我が国の健康栄養問題（変遷）	国民の健康状態の変遷、現在の食生活の問題点について発表、討議 [準備学習]テキストの第2章p23－30を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)
4	我が国の健康栄養問題（少子化）	少子化社会の現状と栄養・健康政策 [準備学習]テキストの第2章p31－36を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)
5	我が国の健康栄養問題（高齢化）	高齢化社会の現状と栄養・健康政策 [準備学習]テキストの第2章p36－47を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)
6	我が国の健康栄養問題（食生活）	我が国の食生活の変遷、国民健康・栄養調査 [準備学習]テキストの第2章p47－60を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)
7	我が国の健康栄養問題（食料需給）	食糧需要と自給率食の安全安心・食品表示法 [準備学習]テキストの第2章p52－61を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)
8	第3章　公衆栄養マネジメント(概念)	公衆栄養マネジメントの概念、スクリーニング、アセスメント、プログラム計画 [準備学習]テキストの第3章p73－78を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)
9	公衆栄養プログラム	公衆栄養プログラム
10	公衆栄養プログラムの展開	公衆栄養プログラムの展開
11	第4章　栄養疫学	栄養疫学の概要・栄養疫調査の内容 [準備学習]テキストの第5章p101－113を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)
12	第5章　我が国の栄養・食糧政策（行政）	公衆栄養活動と関連行政 [準備学習]テキストの第5章p115－126を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)
13	我が国の栄養・食糧政策（健康づくり）	健康づくり運動施策の変遷
14	我が国の栄養・食糧政策（ガイドライン）	栄養・健康指導のガイドライン
15	第6章　諸外国の健康・栄養政策(課題)	世界の健康・栄養問題の現状 [準備学習]テキストの第6章p147－174を事前に読んでおくこと(2時間)。復習(2時間)

《専門科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	安食　邦明				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能				

《授業の概要》
教育制度に関する歴史や意義について学ぶとともに、教員としての責任感や使命感を身に付けるために学校教育の関係法規を学ぶ。さらに、子どもを取り巻く様々な社会的しくみや課題について、主体的に学ぶ。授業形態は講義形式の中に、討議や発表等のｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの手法を取り入れながら教員としての資質･能力を高めていく。

《授業の到達目標》
1.公教育制度の意義や原理・構造等について説明できる。2.教育課題を理解し、関係法等について概略を説明できる。3.教育行政のしくみを説明できる。4.教育制度を巡る諸課題を例示できる。5.学校と家庭･地域との連携や協働の在り方について説明できる。6.学校の安全管理について、課題解決のための具体的取組を例示できる。7.よりよい教育制度の在り方について自分の考えを持ち説明できる。

《成績評価の方法》
授業内レポートと課題提出40％、討議や発表、姿勢30％、最終課題提出30％で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
授業時に資料を配付します。

《参考図書》
坂野慎二・湯藤定宗　編著「学校教育制度概論」［第三版］玉川大学出版部(2022)他

《授業時間外学習》
指示されたレポートや課題について計画的に取り組む。授業のテーマについて調べておき、その内容について自分の考えが発表できるようにしておく。シラバスに示された「時間外学習」は1単位８時間の科目では29時間の時間外学習が必要とされている。

《課題に対するフィードバック等》
提出された課題やレポート、最終課題小論文等について評価し、次回の授業及び最終講義後にコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	教育制度の理念と教育改革の歴史・意義	公教育制度の理念と基本原理、教育改革の歴史的意義や系譜 [時間外学習]教育制度の歴史や意義について調べておく。
2	教育制度を構成する関係法規	教育制度を構成する教育関係法規 [時間外学習]学校教育に係る関係法規について調べておく。
3	教育行政の理念と仕組み・機能	中央教育行政と地方教育行政の原理や理念、組織と機能、 [時間外学習]中央教育行政の原理や機能等について調べておく。
4	学習指導要領と教育課程の編成、教育の目標	学習指導要領の内容　教育課程の編成 [時間外学習]特に小中学校における学習指導要領について調べておく。
5	学校制度の意義と家庭や地域との連携	学校と家庭、地域との連携や学校評価 [時間外学習]「社会に開かれた教育課程」について調べておく。
6	学校の組織と運営	学校の校務分掌と学校の組織化 [時間外学習]学校における教職員組織や校務分掌について調べておく。
7	学校の安全・安心と未来への準備	いじめや不登校問題、学校の安全・安心 [時間外学習]いじめや不登校問題の実態や解決法等について調べておく。
8	学校教育の現在とこれからの在り方	学校における学びと新たな時代における学校像 [時間外学習]今日の学校教育の効果と課題、今後の学校像について考えておく。
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《専門科目》

科目名	特別支援教育論				
担当者氏名	東　敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
現在の学校現場では、特別支援学校や特別支援学級だけでなく、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒への支援や配慮が求められている。本授業では、栄養教諭として、他の教員や関係者と連携をとりながら、多様なニーズを把握し、適切な対応や配慮をおこなっていく上で必要となる知識や技能を学ぶ。具体的な事例を紹介し、グループディスカッションなどを通して実践をふまえた理解を深める。

《授業の到達目標》
①障害児教育の歴史や障害に関連する制度の変遷から、障害とは何か考え，論じることができる。
②各障害の定義と特性について説明することができる。
③障害の特性に合わせた支援法や配慮，環境構成について論じることができる。
④障害以外の特別な教育的ニーズの存在や内容について理解し、必要な支援や配慮について論じることができる。

《成績評価の方法》
授業の到達目標に基づき，課題等提出物20%，授業内の取り組み・発言等20%、授業内試験60％（各回小テスト）で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
●綿引清勝・東敦子・佐々木敏幸　支援を要する子の障害児保育・特別支援教育　保幼小の連続的な学び　中央法規出版　2026出版予定

《参考図書》
●松浪健四郎他監修「特別支援教育」中山書店, 2021
●文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 平成29年4月告示」海文堂出版
●文部科学省「食に関する指針の手引き平成31年3月」建学社

《授業時間外学習》
教科書の分量が多いので、授業計画に沿って予習復習に取り組んでください。自身が住んでいる地域の特別な支援のある幼児・児童・生徒への支援機関などを調べるなど、地域連携についての理解も自身で深めてください。（授業外学習時間は30時間です）

《課題に対するフィードバック等》
提出課題は、授業のなかで全体で共有し、コメントすることがあります。授業内の発言についても、適宜コメントしていきますので、積極的に発言してください。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	特別支援教育の理解	障害の概念や障害のある子どもの教育のあり方の変遷について理解する。 予習：参考図書p9～30　復習：授業配布プリント
2	知的障害の理解と支援	知的障害の特性を理解し、特別支援教育における支援について学ぶ。 予習：参考図書p56～63　復習：授業配布プリント
3	肢体不自由と病弱の理解と支援	肢体不自由と病弱を理解し、10章幼稚園の特別支援教育を学ぶ。 予習：参考図書p44～55・114～125　復習：授業配布プリント
4	聴覚障害の理解と支援	聴覚障害の特性を理解し、11章小中の特別支援教育について学ぶ。 予習：参考図書p38～43・126～139　復習：授業配布プリント
5	視覚障害の理解と支援	視覚障害の特性を理解する。12章特別な教育的ニーズのある児童生徒の理解 予習：参考図書p32～37・140～154　復習：授業配布プリント
6	言語障害とＬＤの理解と支援	言語障害とＬＤの特性について理解する。13章通級による指導について 予習：参考図書p64～83・94～102・156～165　復習：授業配布プリント
7	ＡＳＤの理解と支援	ＡＳＤの特性と支援について学ぶ。14章個別の指導計画及び個別の教育支援 予習：参考図書p84～93 166～177　復習：授業配布プリント
8	ＡＤＨＤの理解と支援	ＡＤＨＤの特性と支援について学ぶ。15章支援体制について学ぶ。 予習：参考図書p104ˆ112・178～188　復習：授業配布プリント
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	教職実践演習（栄養教諭）				
担当者氏名	安食　邦明、鈴木　玉枝				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
本授業は、栄養教諭として最低限必要な資質能力が形成されたかについて、最終的に確認するものである。学生が教育者としての自分の在り方について自ら考え、不足する部分を補い、教育者としての確かな資質を身につけられるようにする。したがって、学修方法もｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの手法を取り入れるなどして、主体的・対話的で深い学びになるよう行っていく。

《授業の到達目標》
①栄養教諭の職務内容について理解したことを実践できる。
②教育実習を通して学んだことが身につけられる。
③主体的･対話的に学び他者理解を深め、自分の考え方を持ち説明できるようになる。

《成績評価の方法》
授業レポート・課題等(70%)、学修に取り組む姿勢・意欲・発表(30%)等を総合評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
・「栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート」
芦川修貮　監修　学建書院

《参考図書》
各校種別の学習指導要領、埼玉県教育課程編成要領及び指導資料等
藤原良知他：編著「よくわかる栄養教諭ー食育の基礎知識―」同文書院
金田雅代　編著「栄養教諭論ー理論と実際ー」建白社

《授業時間外学習》
教育実習で学んだことを身につけられるよう、実習中で気付いた課題を改善するよう努める。レポートに自らの考えをまとめる。履修カルテを記載する。
2単位15時間の科目では60時間の時間外学習が必要とされている。

《課題に対するフィードバック等》
各回授業ごとの小レポートや発表、課題等について、コメントを入れながらフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	教育者としての使命(安食邦明)	社会が求める教育者の資質、教職の意義と教員の役割、職務内容、進路選択 ［時間外学習］教育者の使命について調べておく。
2	特別支援教育（安食邦明)	ロールプレイングを通し、障害のある児童・生徒の発達、学習過程の理解 ［時間外学習］特別支援教育について調べておく。
3	教育課程及び指導法(安食邦明)	教育課程の意義、道徳及び特別活動について ［時間外学習］教育課程の編成・内容について調べておく。
4	教育相談・進路相談(安食邦明)	生徒指導や教育相談の理論及び方法について（事例対応について考え、発表） ［時間外学習］生徒指導・教育相談の意義について調べておく。
5	担任の役割と学校経営(安食邦明)	教育現場における担任の役割と学校経営について（給食指導について考え、発表） ［時間外学習］学級担任の役割について調べておく。
6	現地調査（フィールド・ワーク）	実習校の行事の進行法や、保護者・地域社会・教育者同士の連携の実際を参加・見学 ［時間外学習］事前に打ち合わせ確認する。事後は、実習内容・報告書作成する。
7	保護者や地域社会との連携(安食邦明)	保護者や地域社会との連携の在り方とその実際（事例対応について考え、発表） ［時間外学習］地域連携について具体例を考えておく。
8	教育者同士の連携と学校行事(安食邦明)	教育者同士の連携の在り方や学校行事について（事例対応について考え、発表） ［時間外学習］栄養教諭を中核とした食育行事を考えておく。
9	栄養教諭の職務内容や使命(鈴木玉枝)	中央教育審議会答申を踏まえた栄養教諭の職務内容、使命、役割について ［時間外学習］参考書「栄養教諭論」第一章を読んでおく。
10	児童・生徒の栄養管理及び指導(鈴木玉枝)	食生活に関する課題、社会的状況等に対応した食に関する指導の必要性、意義、現状 ［時間外学習］「食に関する指導の手引き」第一章を読んでおく。
11	食生活の歴史的・文化的事項(鈴木玉枝)	各地域で培われた郷土食、行事食、地場産物、食文化、食習慣等（調べ学修･発表） ［時間外学習］参考書「栄養教諭論」第三章を読んでおく。
12	学校給食の意義と役割など(鈴木玉枝)	学校給食の歴史、教育的意義及び役割などについて ［時間外学習］参考書「栄養教諭論」第三章を読んでおく。
13	栄養指導と管理（集団)(鈴木玉枝)	模擬教育を通し集団栄養指導と管理に関する実践の省察（指導案の発表） ［時間外学習］条件に合わせて指導案を作成しておく。
14	栄養指導と管理（個別)(鈴木玉枝)	模擬教育を通し個別栄養指導と管理に関する実践（肥満と痩身・食物アレルギーなど）（指導案の発表）［時間外学習］条件に合わせて指導案を作成しておく。
15	教職実践の理解と今後の課題(安食邦明)	「成長し続ける教育者」を目指し課題と解決方法を見出す（発表） ［時間外学習］これからの栄養教諭に求められる役割を考えておく。

《専門科目》

科目名	消費者経済				
担当者氏名	大野　満奈				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 教養 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
近年における経済社会の変化と、国際化、情報化、少子・高齢化の進展は、消費生活のスタイルを高度化させながらも同時に、消費者問題（Consumer Affairs）そのものを内容的に一層複雑化させつつある。 ここではそのようなさまざまな事例を通して学習を進め、自ら消費問題について考える力を培う。

《授業の到達目標》
消費者問題の歴史的、体系的学習を通じて、経済社会と消費者の関係について述べることができるとともに、消費者自らが主体的、合理的な消費生活を送る上で必要とされる諸要素について理解し、社会の構成員としての消費の課題について対応することの重要性を説明できる。

《成績評価の方法》
レポート50%、プレゼンテーション40%、ノート提出10%　総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
授業中に配付するレジメを使用する。教科書は使用しない。

《参考図書》
嶋村紘輝他著「入門消費経済学（第 1 巻）」慶応義塾大学出版会
清水聡著「新しい消費者行動」千倉書房

《授業時間外学習》
日々の社会の動き、特に講義のテーマに関連した内容については注目して問題点を整理しておく。自主的にノートを作成する。次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。本授業では60時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》
プレゼンテーションについて授業内でその都度コメントし、提出レポートに関しては提出の翌週にコメントを書き込み、返却する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	消費者経済とは	財とサービス・経済の仕組みと消費生活 【時間外学習】財とサービスの意味を下調べしておくこと
2	経済社会の変化と消費者	経済社会の変化と消費者、人類史における消費者 【時間外学習】消費者の出現を下調べしておくこと
3	高度大衆消費時代	大量生産、所得革命、就業構造の変化 【時間外学習】高度大衆消費時代を下調べしておくこと
4	消費者問題の発生	主な消費者問題　プレゼンテーション 【時間外学習】主な消費者問題を1つ調べプレゼンテーション原稿を作成すること
5	消費行動	消費者の最適な行動 【時間外学習】顕著な消費者行動のいくつかを下調べしておくこと
6	ディスクロージャー	ステークホルダーと利害調整 【時間外学習】ステークホルダーを下調べしておくこと
7	消費者心理	消費者の心理と消費行動 【時間外学習】消費者の心理の一例を下調べしておくこと
8	企業の社会的責任と消費者対策	企業の社会的責任・企業の消費者対応の変化　プレゼンテーション 【時間外学習】企業が社会的責任を果たすための一例を下調べしておくこと
9	消費者被害とＰＬ法	製造物責任の意義と企業対応 【時間外学習】ＰＬ法を下調べしておくこと
10	不当表示	取引委員会･景品表示法・JAS 規格 【時間外学習】景品表示法を下調べしておくこと
11	市場価格と消費	購買の原動力と市場特性に関する知識の重要性 【時間外学習】市場価格はどの様に変化するかを下調べしておくこと
12	消費と「食」と社会生活	日本型食生活・家庭の食育運動 【時間外学習】日本型食生活を下調べしておくこと
13	環境問題と消費生活	消費の高度化と環境問題 【時間外学習】消費の多様化を下調べしておくこと
14	循環型消費経済社会	リサイクルとゼロエミッション 【時間外学習】循環型消費を下調べしておくこと
15	まとめ	総合的復習とノート提出 【時間外学習】ノート14回分を見直しておくこと

《専門科目》

科目名	パティスリー・ブーランジェリー演習Ⅱ				
担当者氏名	米澤　澄子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能			

《授業の概要》
お菓子やパンの主な食材である小麦粉、卵、砂糖、油脂の成分、乳製品など、また 分類、種類、扱い方について学び、製菓・製パンの基本知識を習得する。
班ごとにお菓子やパンを作り、お互いに講評し、グループワークを通して実践的に学ぶ。

《授業の到達目標》
菓子やパンが出来上がる過程を理解し、実習作品の成り立ちを説明できる。
材料の特徴や使用方法等を理解し、ジェノワーズ（スポンジケーキ）が計量から仕込みまで出来るようになる。

《成績評価の方法》
実技試験60%、実習ノート30%、観察記録10%を考慮して総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》
製菓衛生師教本　　全国製菓衛生師養成施設協会
基礎からわかる製パン技術　吉野精一
Les Bases de la Patisserie洋菓子教本日本菓子教育センター

《授業時間外学習》
本授業では、毎回ノートに纏めておく。実習を通して成功したこと、失敗したこと、注意しなければならないことを毎回記入しておくこと。
最終回にノートの提出を行う。
本授業では、予習、復習等30時間の自己学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》
実習衣を着用し衛生に注意し、授業に臨む。
実習ノートの確認及び授業内容に示された操作の習熟度合、授業時間内に改善点や評価などの助言を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	生クリームの取り扱い方	オムレットなど。 【準備学習】生クリームとは何か調べておく。
2	チョコレート菓子	チョコレートケーキ各種。 【準備学習】ガトーショコラの歴史を調べておく。
3	基本的なパン生地について	バターロールなど。 【準備学習】パン生地醗酵の流れを理解する。
4	シューアラクレーム	作り方と絞り方の違いについて。 【準備学習】シュー生地の作り方を予習しておく。
5	四同割について	タルト。 【準備学習】四同割についてしらべておく。
6	別立てと共立て	ロールケーキ。 【準備学習】ジェノワーズの工程を予習しておく。
7	乳製品を使用したお菓子	チーズケーキなど。 【準備学習】チーズとは何か調べておく。
8	メレンゲの種類	マカロン。 【準備学習】実習をする前にメレンゲの種類を確認しておく。
9	パイ菓子	フィユタージュを使用したお菓子。 【準備学習】パイ生地の種類を調べておく。
10	季節のお菓子	旬のお菓子。 【準備学習】旬のお菓子を調べておく。
11	スポンジ製品	製法と配合及び種類。 【準備学習】作り方の復習をしておく。
12	クリスマスケーキ	ショートケーキなど。 【準備学習】前回の復習を行い、ノートに纏めておく。
13	調理パン	ウインナーパンなど。 【準備学習】製パンの工程を調べておく。
14	揚げパン	ドーナツなど。 【準備学習】製パンの工程を調べておく。
15	チョコレート	アマンドショコラなど。 【準備学習】チョコレートが出来る工程を調べておく。

《専門科目》

科目名	栄養総合演習				
担当者氏名	田中　政巳、鈴木　玉枝、長谷川　順子、古俣　智江、冨重　慶子、甲山　恵美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
将来、栄養士として社会で活躍するために基礎知識の習熟度レベルを上げ、総合的視点より分野を関連させ横断的に理解し実力をつけることを目的とする。
栄養士としての基礎知識を修得し、管理栄養士へのステップアップにつなげる。

《授業の到達目標》
栄養士として働くうえで必要な知識・技術についての科目を復習し、活用することができる。

《成績評価の方法》
定期試験（80%）、各回の提出物等(20%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》
栄養士実力認定試験過去問題集　最新版
各科目プリント等

《参考図書》
各科目で使用のテキストなど。

《授業時間外学習》
各授業に関連する学習項目について予習すること。
提示された課題について復習すること。
終了した項目に関連した栄養士実力認定試験既出問題などを参考に復習すること。（本授業では15時間の時間外学修が必要です）

《課題に対するフィードバック等》
課題は、授業等で説明等をしながらフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	社会および環境と健康の関わり（冨重）	環境と健康，わが国における健康の現状について理解を深める。 疫学指標について理解し、主要疾患の疫学と予防対策への理解を深める。
2	人体の構造と機能(田中政巳)	人体を，生体成分，細胞，組織，臓器・器官および個体のレベルで理解する。生体内でみられる各種代謝を理解する。
3	栄養における栄養素等のはたらき１(鈴木)	栄養の概念、栄養と健康・疾患との関わり，栄養の意義への理解を深める。
4	栄養における栄養素等のはたらき２（田中政巳）	5大栄養素の消化・吸収の栄養学的な役割，体内動態と臓器特性を理解する。
5	食べ物と機能（甲山）	食品の主要成分と機能、食べ物の循環（食物連鎖）や食品ロスについて理解を深める。
6	食べ物と健康（甲山）	食品成分表の基本的な構成について理解し、食品の加工に伴う食品成分の物性的，化学的，栄養学的変化を学ぶ。
7	食品衛生・食品の安全性確保（田中政巳）	食品衛生管理（一般衛生管理プログラム， HACCP等）について、 病原性微生物・有害物質による食品の汚染とその防止について学ぶ。
8	食事と調理の科学(古俣)	健康を支える食事を実践するために食事の基本を理解する。 各食材料の調理性および加熱調理操作・非加熱調理操作を理解する。
9	給食と給食運営管理(長谷川)	給食の概念、給食マネジメントを理解する。給食の栄養管理と品質管理、食材料管理、生産管理ならびに インシデント･アクシデント管理について学ぶ。
10	ライフステージ別の栄養（鈴木）	ライフステージ別の栄養について学ぶ。
11	疾病と栄養１(鈴木) 傷病者・障がい者	傷病者・障がい者の栄養管理に関する理解を深め，医療・介護領域における栄養士の役割を学ぶ。グループ学修により解答を導き、正文化しプレゼンテーションする。
12	疾病と栄養２(鈴木) ライフステージ	ライフステージ別にみた疾病に対する栄養管理について学ぶ。
13	人間の行動変容に関する理論（冨重）	行動変容に関する理論・モデル・概念を理解し、カウンセリングの基本と栄養の実践への応用を学ぶ。
14	健康に関わる社会制度・法規と保健活動（冨重）	社会制度および法規の重要性を踏まえ，健康の維持・増進のための公共団体の役割を理解し，栄養士活動の法規を理解する。
15	総合力問題（鈴木）	対象者の栄養状態や食環境等の状況をふまえ、適切な栄養補給、食事提供に関するマネジメントを学ぶ。